

令和元年 9 月

# 杵築市民アンケート 2019

杵築市総合計画策定に向けた まちづくりに関する意識調査 結果報告書（詳細版）

杵築市役所 政策推進課（令和元年 6～7 月実施）

〒873-0001 杵築市大字杵築 377-1

電 話：0978-62-1804（直通）

メー ル：seisaku@city.kitsuki.lg.jp

## 【目次】

### 第1章 杵築市民アンケート2019の概要、回答者属性

### 第2章 単純集計結果

- (1) 杵築市での暮らしや特徴……………P5
- (2) 杵築市の行政活動・市政の評価……………P10
- (3) 将来の杵築市に対する願い……………P17
- (4) 市民の地域づくりへの参加……………P20
- (5) 行財政・市民負担のあり方……………P24
- (6) 回答者自身について……………P28

### 第3章 クロス集計による傾向分析

- (1) 杵築市での暮らしや特徴（住所地による差）……………P32
- (2) 杵築市の行政活動・市政の評価についてうかがいます（年代による差）……………P35
- (3) 将来の杵築市に対する願いについて（杵築市は住みやすいと感じているか否かの差）……………P39
- (4) 市民の地域づくりへの参加についてうかがいます（年代による差）……………P41

## 第1章 杵築市民アンケート2019の概要、回答者属性

### 1. 調査の目的

この調査は、市民の生活意識や市の施策に対する関心やニーズを把握し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用するために実施した。平成28年に策定した当市のまちづくりの指針である「第2次杵築市総合計画 前期基本計画」の進捗管理、及び令和2年からの5か年における「第2次杵築市総合計画 後期基本計画」の策定において反映するもの。

### 2. 調査項目

- (1) 回答者の属性（年代・居住年数等）
- (2) 杵築市での暮らしや特徴
- (3) 杵築市の行政活動・市政の評価
- (4) 将来の杵築市に対する願い
- (5) 市民の地域づくりへの参加
- (6) 行財政・市民負担のあり方
- (7) その他、回答者自身について（防災・スポーツ習慣・インターネット利用等）
- (8) 自由意見

### 3. 調査対象

この調査は、令和元年6月1日現在、杵築市内に住民登録のある20歳以上75歳未満の18,714人を対象として実施した。

### 4. 調査設計

調査地域	杵築市内全域
標本数	上記調査対象から2,000名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	質問紙による郵送調査法（無記名回答）
調査時期（期間）	令和元年6月18日～7月7日 ※8月19日までの返送分を反映している。
調査実施機関	杵築市役所 政策推進課

### 5. 回収結果

発送数	未着数	実発送数	有効回収数	有効回収率
2,000票	16票	1,984票	753票	38.0%

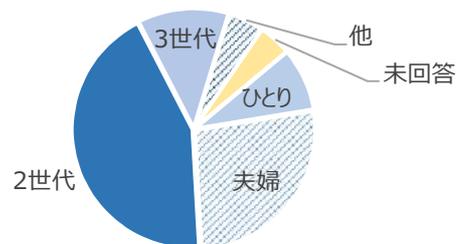
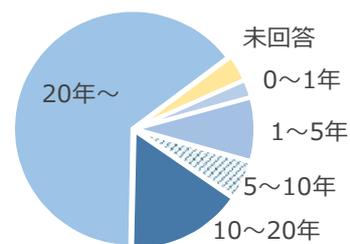
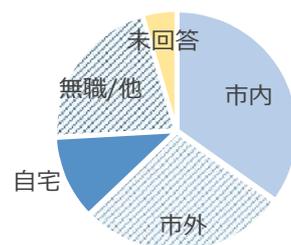
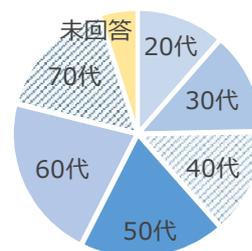
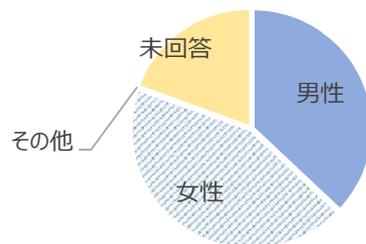
※前回（平成27年）調査：有効回収数676票／有効回収率34.2%

### 6. 本報告書の見かた、集計について

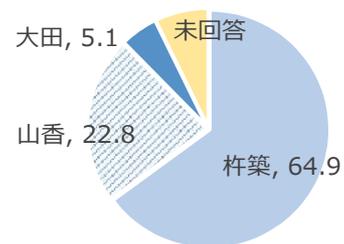
- ・便宜上、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。
- ・図表において、実際の設問表現を簡略化している場合がある。
- ・属性等に未回答があるため、クロス集計の際に合計数が異なる項目がある。

## 7. 回答者の属性について

属性		票数	(%)
性別	男性	279	37.1
	女性	327	43.4
	その他	1	0.1
	未回答	146	19.4
年齢	20代	86	11.4
	30代	100	13.3
	40代	104	13.8
	50代	142	18.9
	60代	162	21.5
	70代	122	16.2
	未回答	37	4.9
勤務地	杵築市内	263	34.9
	杵築市外	210	27.9
	自宅（自営業・在宅）	85	11.3
	無職・その他	161	21.4
	未回答	34	4.5
在住年数	1年未満	18	2.4
	1年以上5年未満	65	8.6
	5年以上10年未満	40	5.3
	10年以上20年未満	118	15.7
	20年以上	485	64.4
	未回答	27	3.6
家族構成	ひとり暮らし	64	8.5
	夫婦のみ	201	26.7
	2世代が同居（親と子）	327	43.4
	3世代が同居（親と子と孫）	92	12.2
	その他	36	4.8
	未回答	33	4.4



住所（自治協・旧小学校区別）		票数	(%)
杵築地域	杵築	222	29.5
	大内	49	6.5
	杵築東	51	6.8
	八坂	65	8.6
	北杵築	33	4.4
	奈狩江（護江・豊洋）	69	9.2
山香地域	東山香	26	3.5
	中山香	75	10.0
	上	26	3.5
	立石	22	2.9
	向野	8	1.1
	山浦	15	2.0
大田	田原	20	2.7
	朝田	18	2.4
未回答		54	7.2



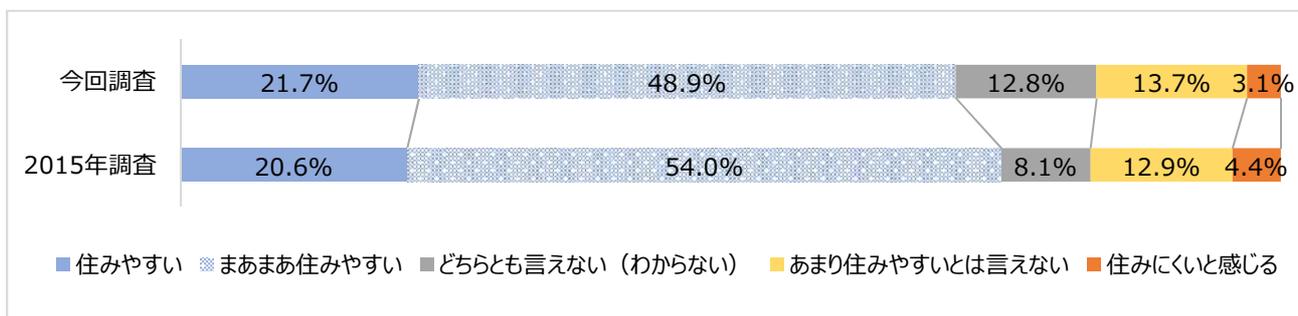
#### 【回収票（753票）の属性の特徴】

- ・性別は、おおむね半数。今回、自由記載としたため、未回答が多くなったと推測される。
- ・年齢について、50代以上の回答率が高い傾向にあり、40代以下では、ほぼ同数となっている。
- ・在住年数は、20年以上が半数以上を占め、10年以上在住者では、約8割となっている。
- ・家族構成でみると、ひとり暮らしの人からの回答率が低い傾向にある。
- ・住所別では、各地域の人口と比較した場合、極端な差はみられない。



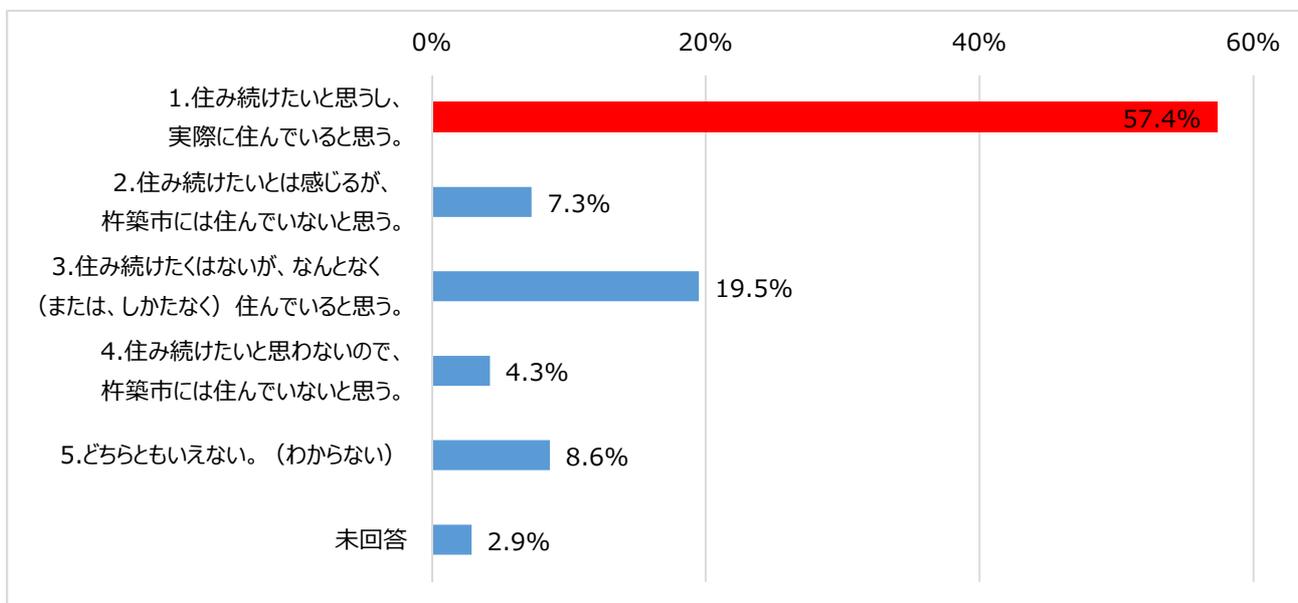
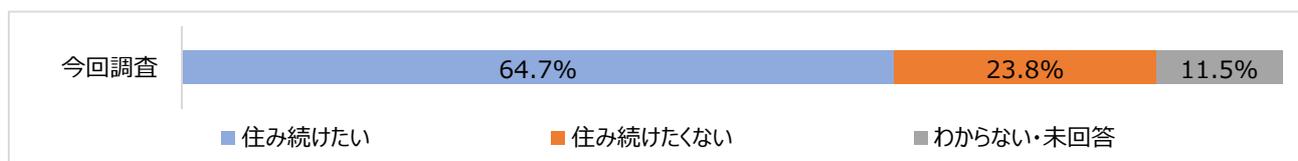
## 第2章 単純集計結果 (1) 杵築市での暮らしや特徴

【A1】あなたにとって、杵築市は住みやすいですか。



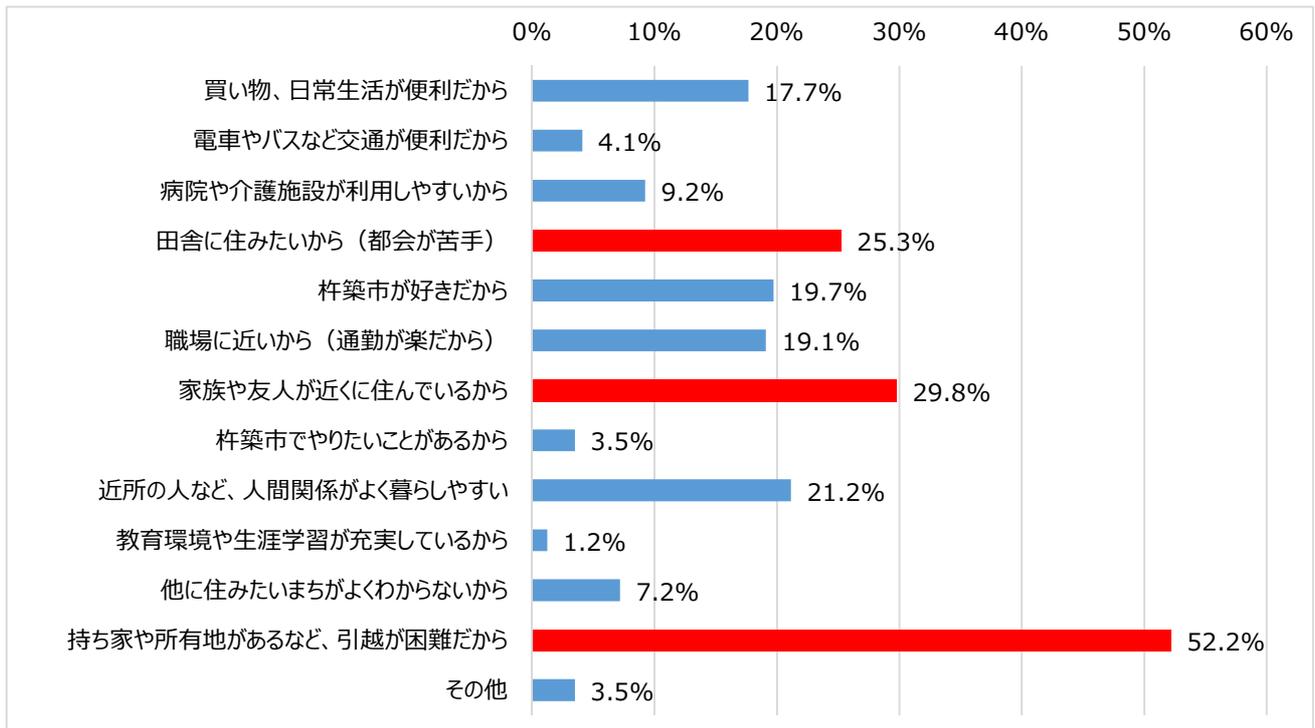
- ・前回調査と比較して、「住みやすい（まあまあ住みやすいを含む）」の値が、若干マイナスとなる。
- ・一方で、「住みにく」と感じる割合も、微減している。

【A2】今後も杵築市に住み続けたいですか。

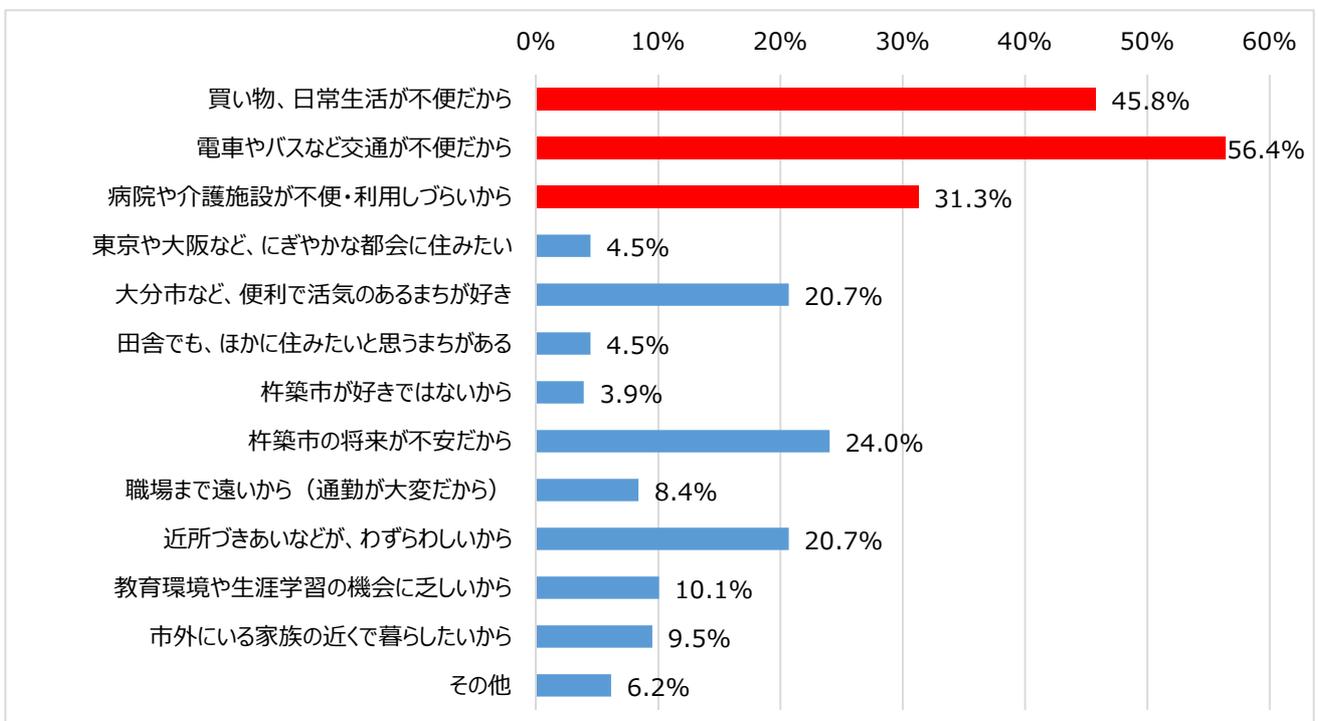


- ・「住み続けたいか」に加え、実際に住み続けるかどうかについて尋ねたところ、「住み続けたいと思うし、実際に住み続ける」という回答が最も高かった。
- ・また、本アンケートは、約8割が（住み続けたいかは別として）、「住み続ける」という人からの回答である。

## 【A2】で 1 または 2（杵築市に住み続けたい）と答えた理由 ※複数選択可

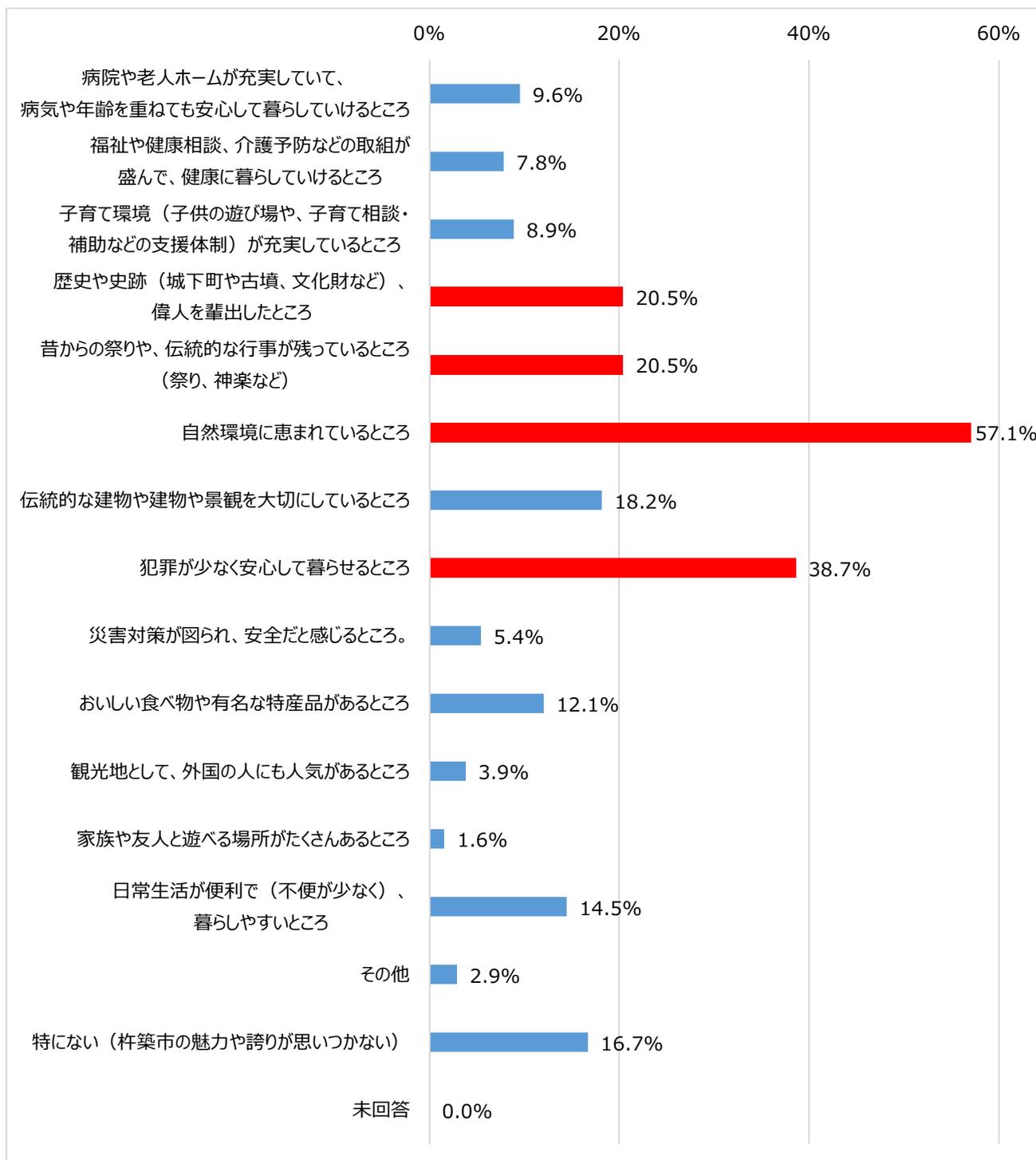


## 【A2】で 3 または 4（杵築市に住み続けたくない）と答えた理由 ※複数選択可



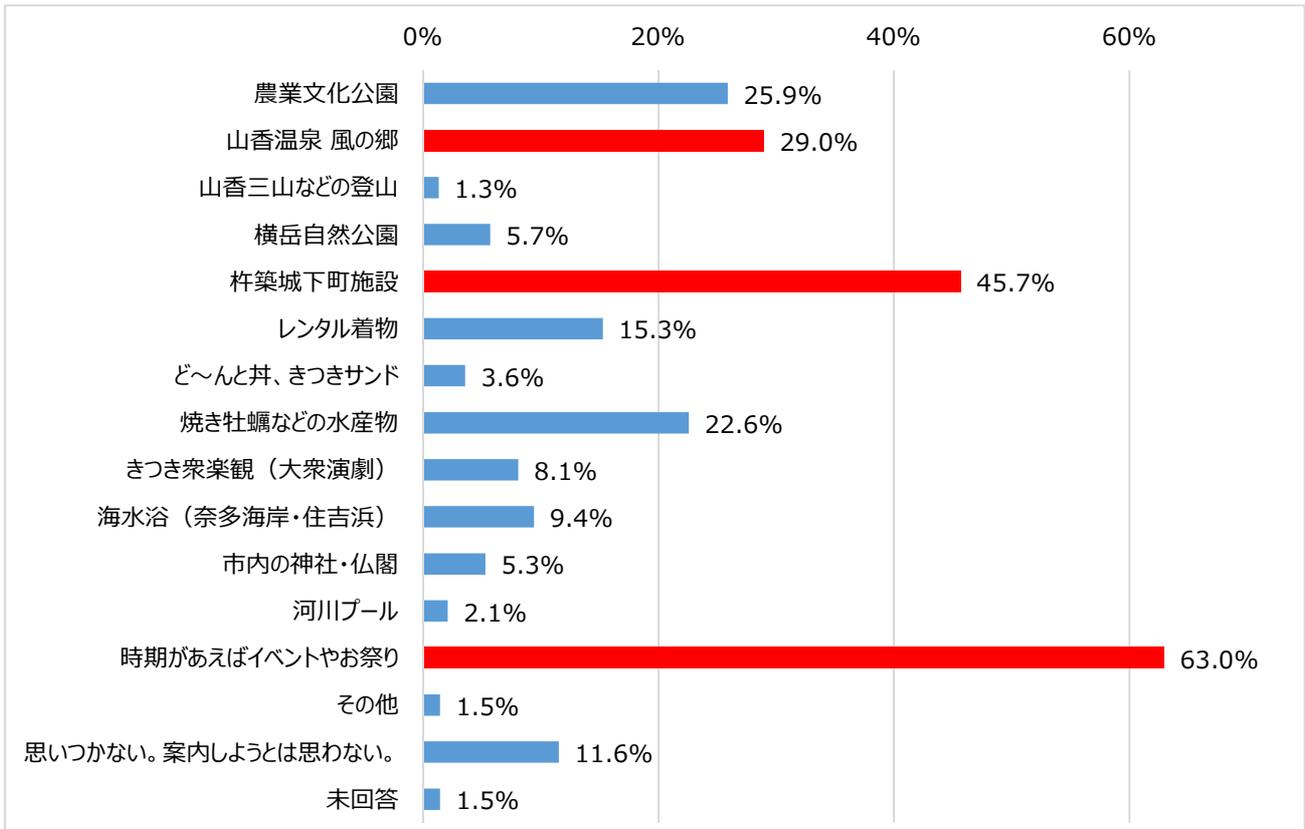
- ・さらに、その理由について尋ねた結果は、上記のとおりである。（上位3つの理由を赤で色付け）
- ・「住み続けたくない」理由は、日常生活や交通不便を指摘する回答が多い。

【A3】杵築の好きなところ、魅力や誇りに感じるものはありますか。 ※複数選択可

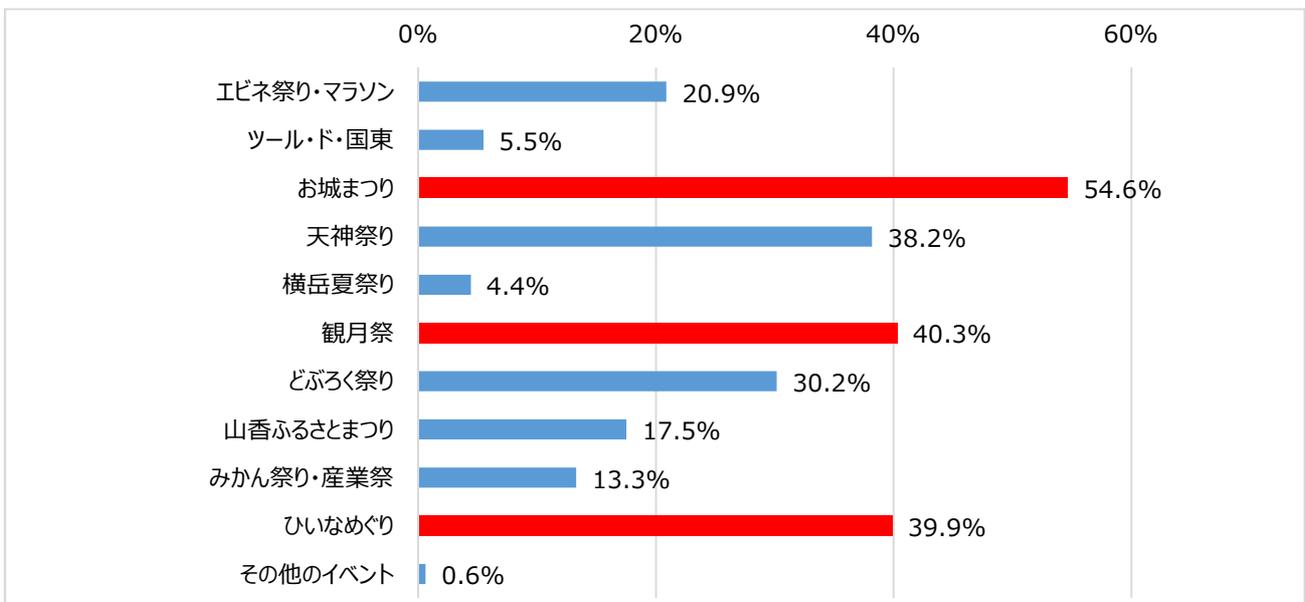


- ・自然環境や犯罪の少なさといった、「田舎」によくある要素が、まちの魅力としてもっとも多くあげられた。
- ・史跡、伝統行事など杵築市固有の有形、無形の歴史文化については、順位こそ高かったものの、魅力や誇りに感じる割合は5人に1人程度に留まっている。

【A4】遠方から友人などが杵築市を訪れた際、紹介、案内したいところはどこですか。 ※複数選択可



【A4】イベントやお祭りの内訳



- ・それぞれ上位3つの理由を赤で色付け。
- ・市内で行われるイベントやお祭りを推す意見が最多である。



## 第2章 単純集計結果 (2) 杵築市の行政活動・市政の評価

### 【5段階評価】

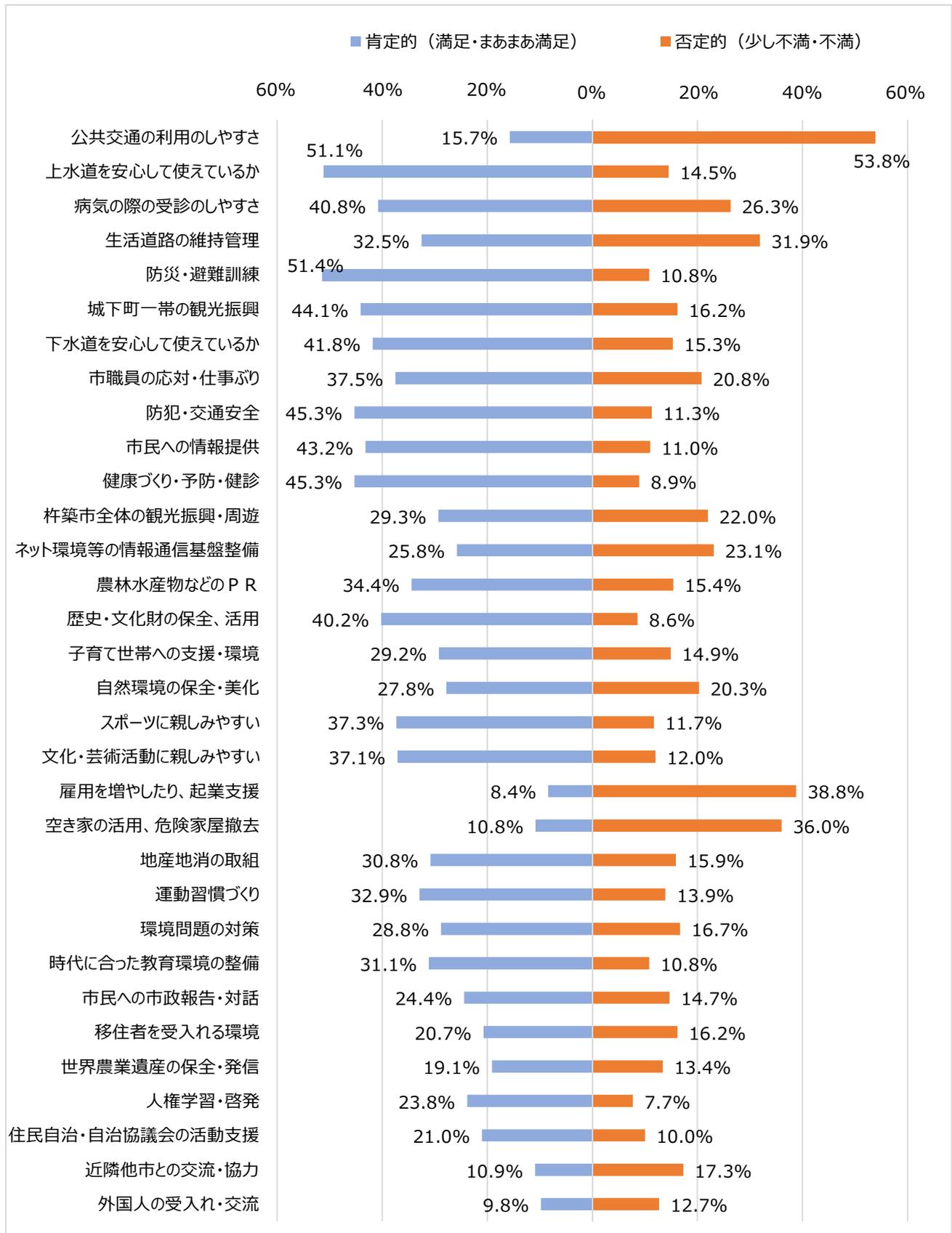
1. 満足（よく頑張っている）
2. まあまあ満足
3. どちらともいえない（市の取組が思いつかない・わからない）
4. 少し不満
5. 不満（他市に比べて劣っている）

【単位：％】

【B1】 杵築市の行政活動・市政の評価についていかがですか。 杵築市が今まで行ってきたことや杵築市での暮らし（特にこの5年ほど）について、あなたはどのように評価しますか？ 以下の(1)～(32)の、それぞれの項目について、あなたの感じ方に一番近いものを選んでください。  ※5段階評価	満足 （よく頑張っている）	まあまあ満足	少し不満	不満 （他市に比べて劣っている）	どちらでもない（市の取組が思いつかない）	未回答
(1)あなたの健康づくりや病気予防、健診・相談の受けやすさ	9.8	35.5	5.2	3.7	42.0	3.9
(2)あなた自身の運動習慣づくり	5.4	27.5	9.3	4.7	48.1	5.1
(3)あなたが病気になった際の受診のしやすさ	6.8	34.0	13.9	12.4	29.1	3.9
(4)子育て世帯への支援体制・環境づくり	5.6	23.6	8.1	6.8	45.2	10.8
(5)防災対策・避難訓練の実施（避難のわかりやすさなど）	10.8	40.6	8.2	2.5	33.3	4.5
(6)防犯・交通安全の取組（不安や危険を感じないか）	7.8	37.5	8.2	3.1	38.1	5.3
(7)農林水産物などの特産品のPR	7.7	26.7	9.6	5.8	44.4	5.8
(8)農林水産物などの地産地消の取組	5.6	25.2	10.4	5.6	47.5	5.7
(9)「世界農業遺産」の保全・発信・魅力づくり	2.9	16.2	8.2	5.2	61.0	6.5
(10)雇用を増やしたり、起業を支援したりする取組	1.2	7.2	19.8	19.0	46.8	6.1
(11)城下町一帯の観光振興	10.2	33.9	10.2	6.0	34.1	5.6
(12)杵築市全体の観光振興・周遊の仕組みづくり	5.8	23.5	13.4	8.6	42.5	6.1
(13)山野や海辺・川辺など、自然環境の保全・美化	3.9	23.9	14.1	6.2	45.8	6.1
(14)環境問題（ごみ削減やリサイクル、地球温暖化）の対策	4.4	24.4	11.7	5.1	48.9	5.6
(15)歴史・文化財の保全や活用	8.2	32.0	6.4	2.3	44.5	6.6
(16)人権学習・啓発活動	4.3	19.5	5.2	2.5	61.5	7.0

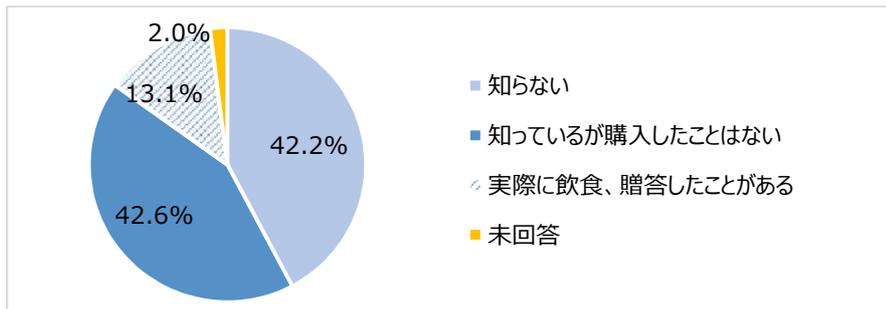
(17)スポーツに親しみやすい環境づくり	4.0	33.3	8.2	3.5	46.1	4.9
(18)文化・芸術活動に親しみやすい環境づくり	5.2	31.9	7.7	4.3	46.6	4.4
(19)時代に合った教育環境の整備 (ICT・エアコン等)	4.9	26.2	7.2	3.6	50.5	7.7
(20)身近な生活道路の維持管理	4.3	28.3	20.9	11.0	30.3	5.3
(21)公共交通 (鉄道や民間バスを含む) の利用のしやすさ	1.5	14.2	25.5	28.3	25.8	4.8
(22)上水道を安心して使えているか	14.7	36.4	8.9	5.6	29.0	5.4
(23)下水道を安心して使えているか	11.8	30.0	6.5	8.8	34.8	8.1
(24)インターネット環境など情報・通信基盤の整備	4.0	21.8	12.4	10.8	43.4	7.7
(25) 住民自治の実現・住民自治協議会の活動支援	2.3	18.7	6.4	3.6	61.6	7.4
(26)移住者を受け入れる環境づくり	3.2	17.5	8.6	7.6	56.3	6.8
(27)空き家の活用や危険な建物の解体などの対策	1.6	9.2	22.6	13.4	47.1	6.1
(28)近隣他市町との協力関係・交流	1.1	9.8	11.0	6.2	64.3	7.6
(29)外国人の受入れ体制づくり・交流	1.6	8.2	7.3	5.4	69.7	7.7
(30)市民への市政報告・対話	2.3	22.2	9.8	4.9	53.7	7.2
(31)市民への情報提供 (広報きつき・市ウェブサイト)	5.4	37.7	7.3	3.7	39.8	6.0
(32)市役所職員の対応・仕事ぶり	6.8	30.7	13.2	7.7	37.1	4.7

- ・以下のグラフは、満足と不満（いずれも「まあまあ・少し」を含む）の割合を比較したものである。
- ・上から、関心度の高いものの順に並べている。（「3. どちらともいえない」が少ない順）



- ・市政に対する評価について、「上水道を安心して使えている」、「防災・避難訓練」は、半数以上が肯定的な回答をした。一方で、「公共交通の利用のしやすさ」は、半数以上が否定的な回答をした。
- ・「世界農業遺産」、「人権学習」、「住民自治」、「近隣市との交流」、「外国人の受入れ・交流」などは、関心が低い、もしくはどのような事業を行っているのかわからないとの評価が高い結果となった。

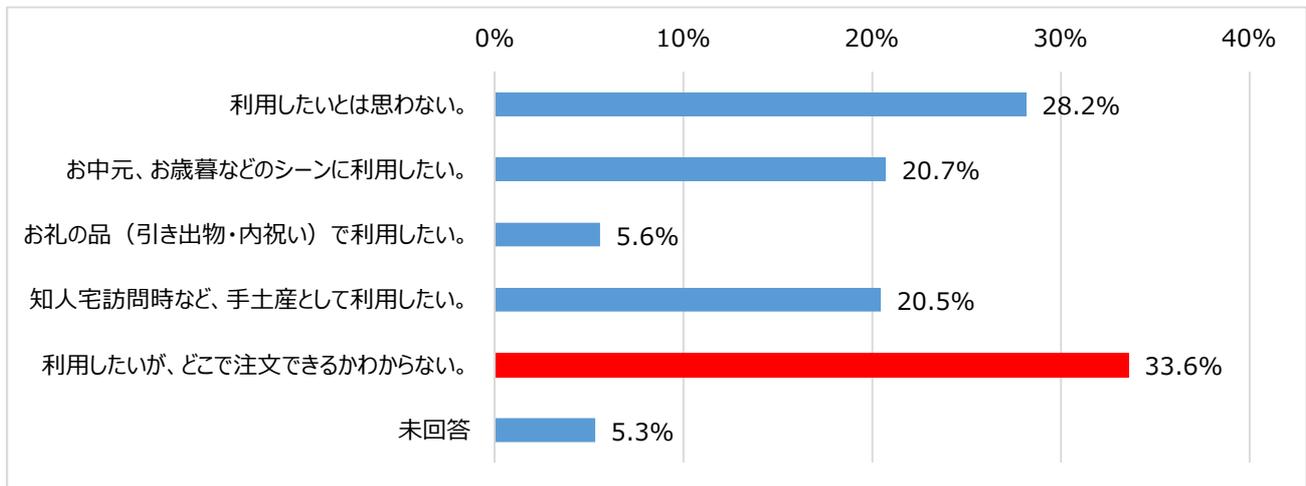
【B2】杵築の特産品ブランド「きつきのきづき」を知っていますか。



ブランド・ロゴ↑

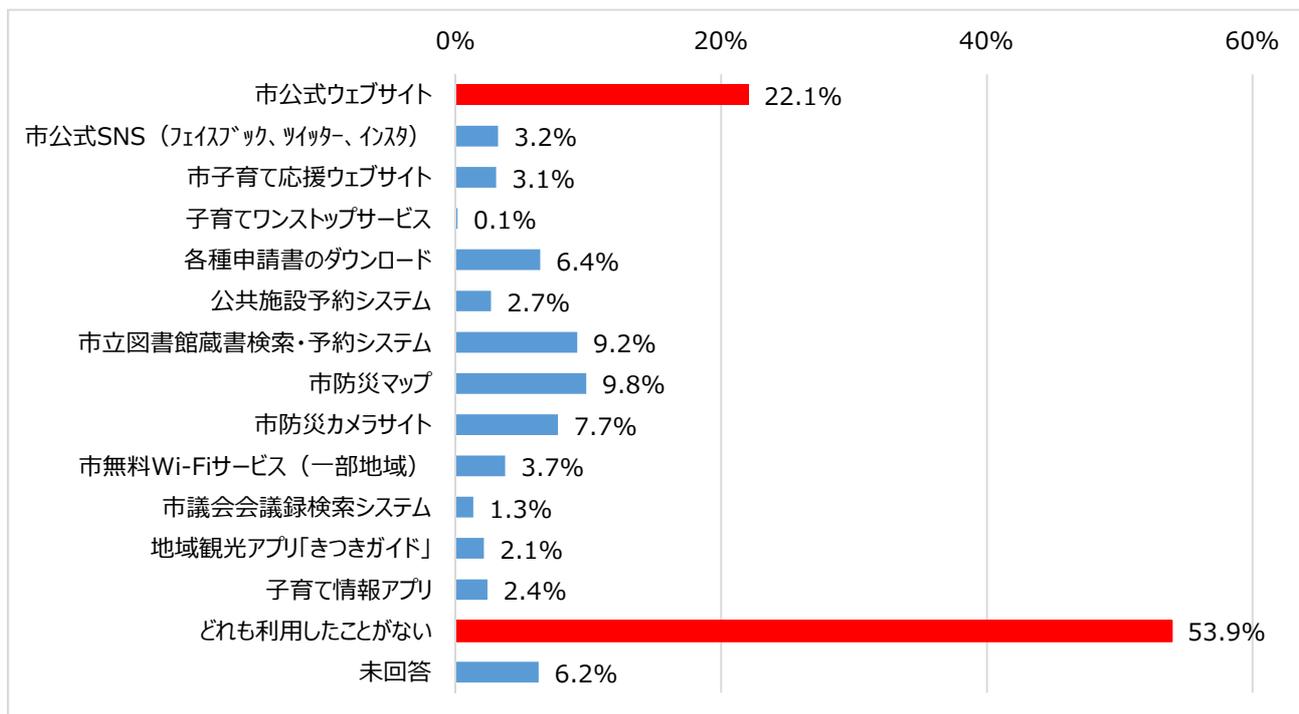
- ・主に首都圏でPRしている杵築市の特産品ブランドの市民への認知度は半数以上となっています。
- ・しかしながら、利用したことがある人は、1割程度に留まっています。

【B3】きつきのきづき認定商品を、贈答などで購入してみたいと思いますか。 ※複数選択式



- ・利用を希望する人の割合は高く見込まれる。
- ・「どこで注文できるかわからない」など、対応、告知が求められている。

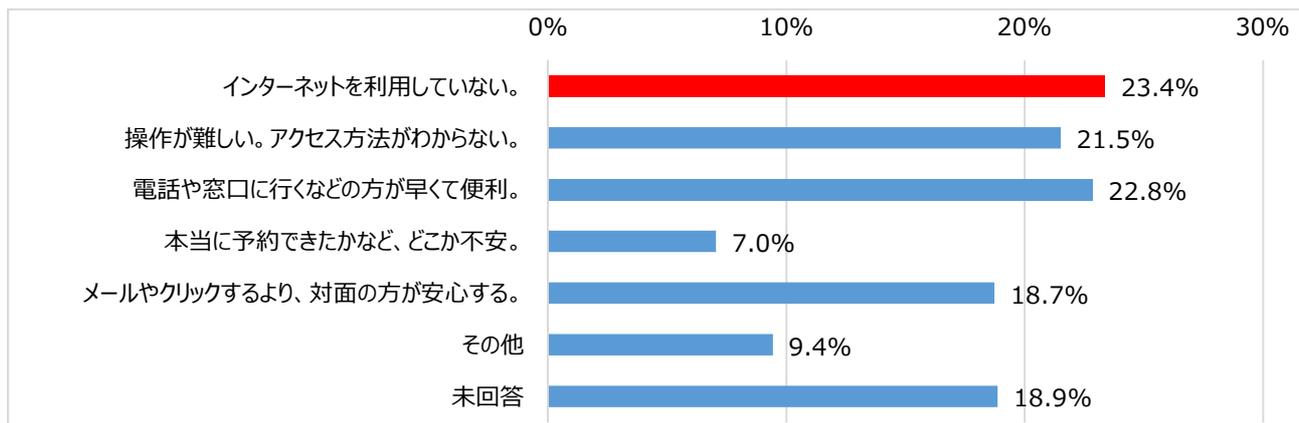
**【B4】杵築市が行っている電子行政サービスのうち、利用したことがあるものを教えてください。 ※複数選択式**



・どれも利用したことがない人が、半数以上である。

・利用された中では、市公式ウェブサイトが最も高く、次いで「図書館」、「防災」となっているが、ほとんどの電子行政サービスで1割以下の利用実態となっている。

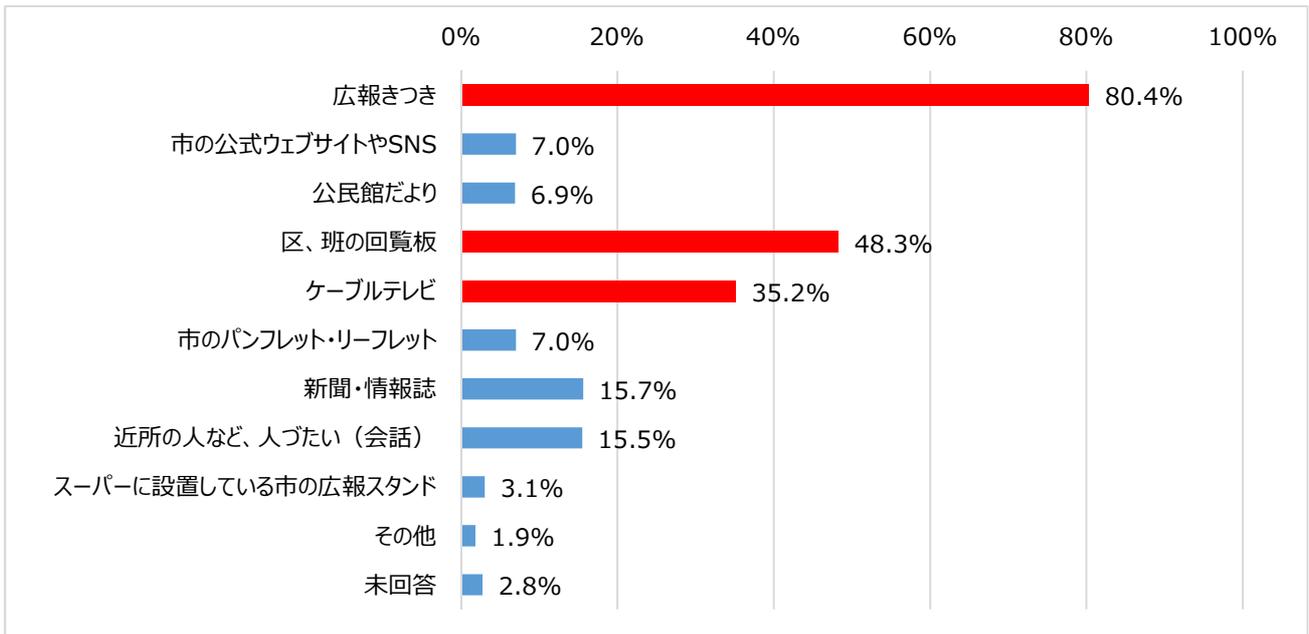
**【B5】上記電子行政サービスに、利用しづらかったり、利用をためらってしまう点がありますか。 ※複数選択式**



・「インターネットを利用していない」率の割に、【B4】「どれも利用したことがない」率が、高い印象である。

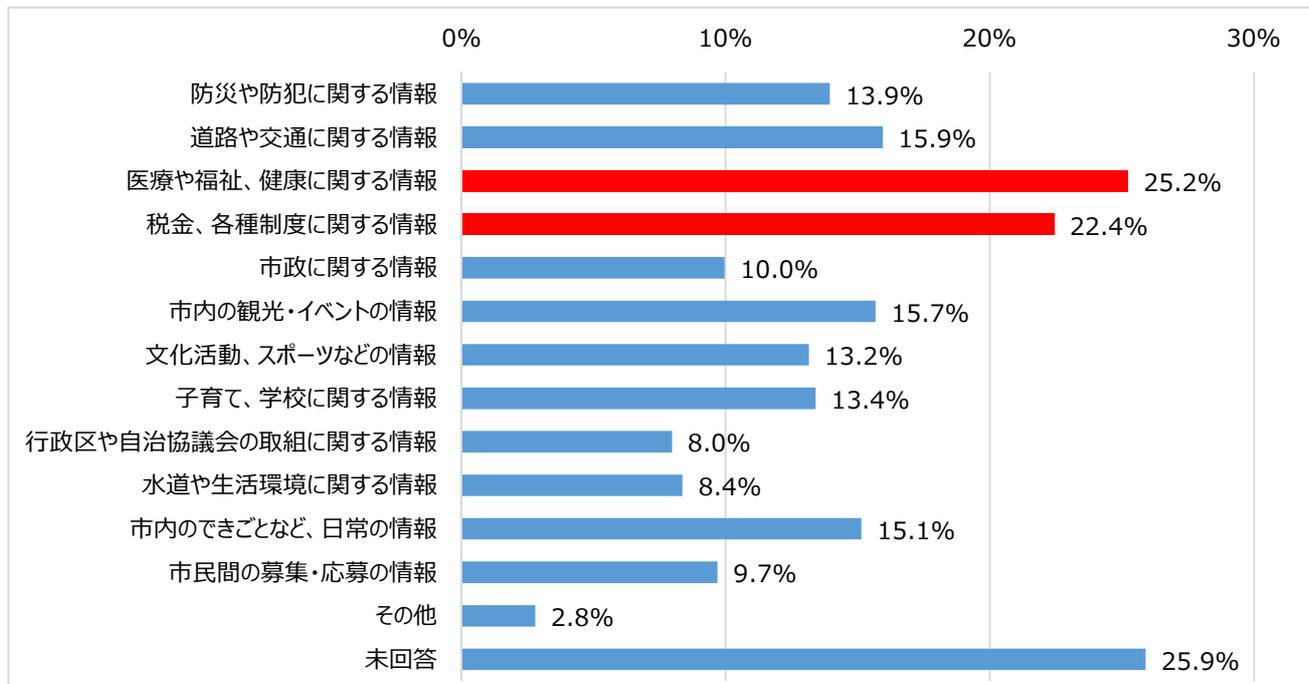
・不慣れた操作やアクセス方法を探す手間より、「電話や窓口へ行く」、「対面の方が安心」という結果である。

## 【B6】杵築市など行政からのお知らせを、主にどこから得ていますか。 ※複数選択式



・「広報きつき」は前回調査（71.2%）より9.2%増加、「区や班の回覧板」は、前回調査（55.3%）より、7%減少している。

## 【B7】市など行政からのお知らせのうち、ほしいのに不足している（伝わってきていない）と感じる情報は、どのようなものがありますか。（関心がないものには○をしないでください） ※複数選択式



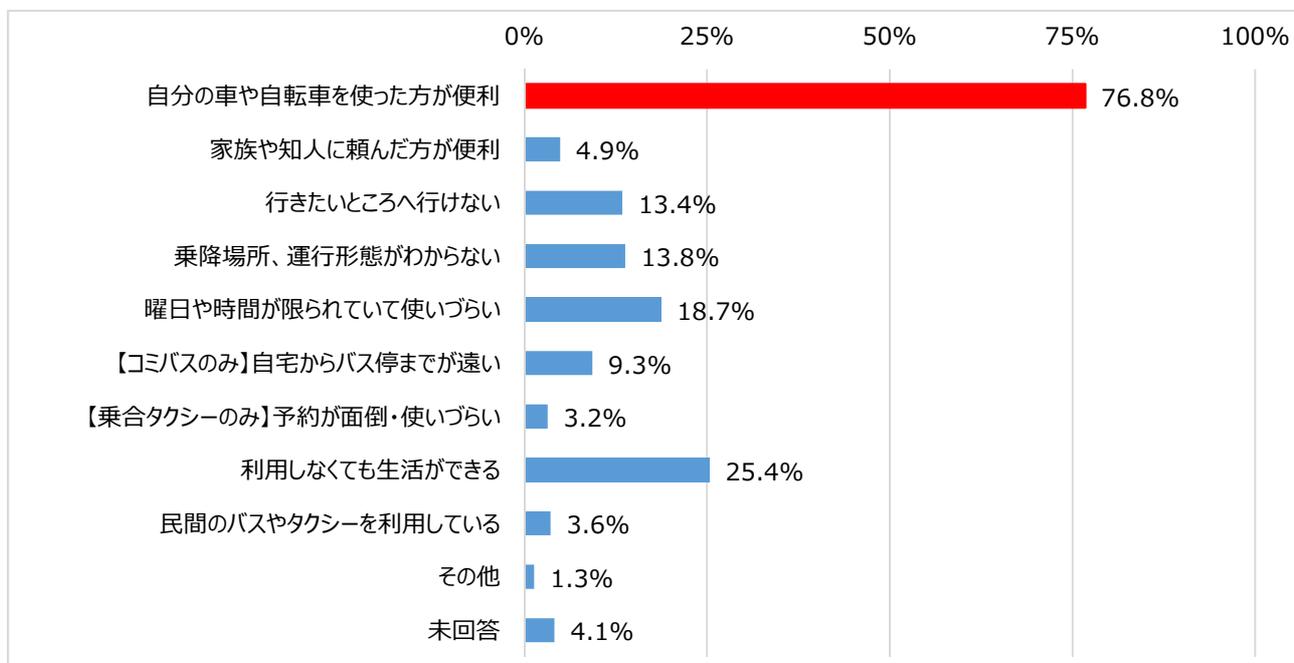
・「医療や福祉、健康」や「税金、各種制度」について、より多くの情報提供を求められている。

**【B8】杵築市が提供するコミュニティバス・乗合タクシーを利用していますか。**



- ・回答者について、「日常的、たまに利用する」を合わせても、5%に満たない。
- ・75歳未満を対象とした調査のため、次の設問等、実際の利用者の声とは異なる点に注意が必要である。

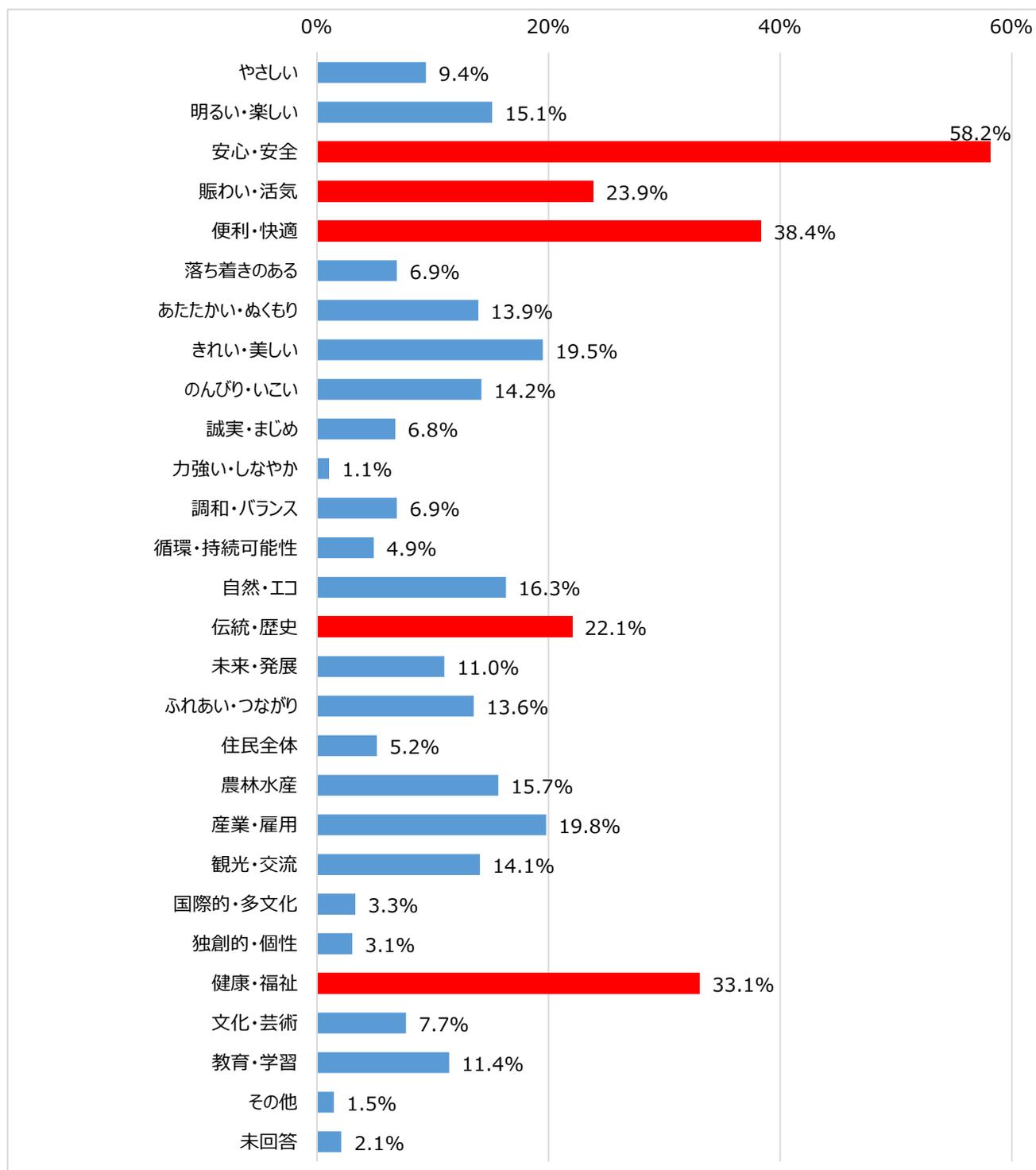
**【B9】コミュニティバス・乗合タクシーについて、利用しない・できない理由には、どのようなものがありますか。日常的に利用している人も、利用しづらい点を教えてください。 ※複数選択式**



- ・アンケートの対象者（回答者）については、まだ車を運転できる状態にある人が多く、上記の結果となった。
- ※ <将来、車を使えなくなった後の生活> に対する考えについては、次の【C3】の間にまとめている。

## 第2章 単純集計結果 (3) 将来の杵築市に対する願い

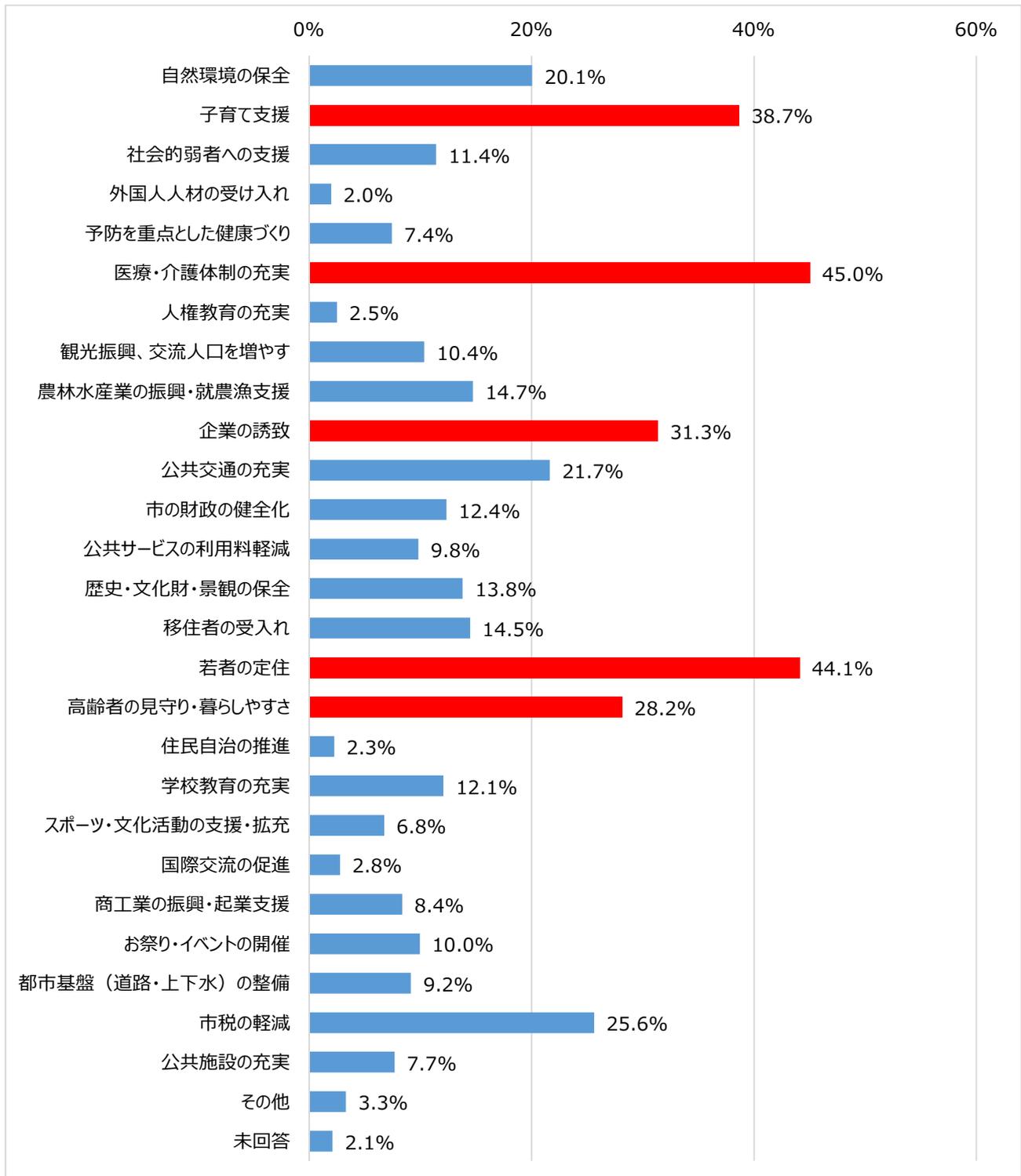
【C1】あなたが、杵築市の将来像（杵築市の雰囲気）として目指してほしいイメージやキーワードを以下から選んでください。 ※複数選択可



- ・安心・安全が全項目の中で群を抜いて高く、唯一 2 人に 1 人以上の回答を集めた。
- ・便利・快適、健康・福祉といった生活に関連した回答も多かった。（赤色は上位 5 項目）

【C2】今後、さらに住みよいまちとなるため、杵築市が重点的に行うべきと思われる取組を選んでください。

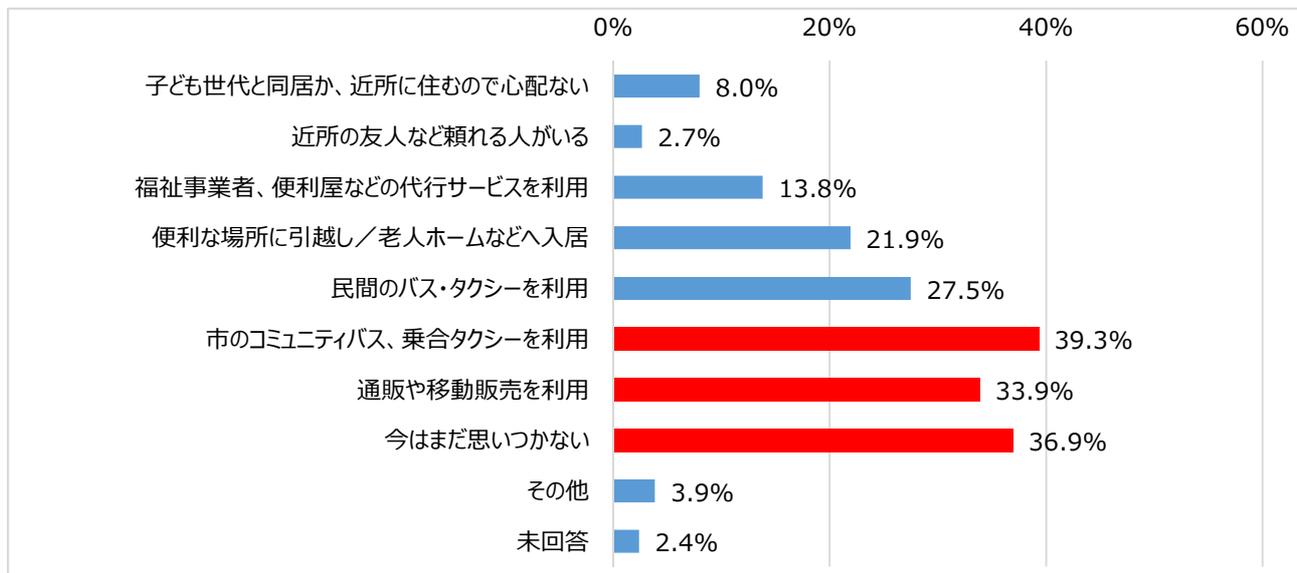
※複数選択可



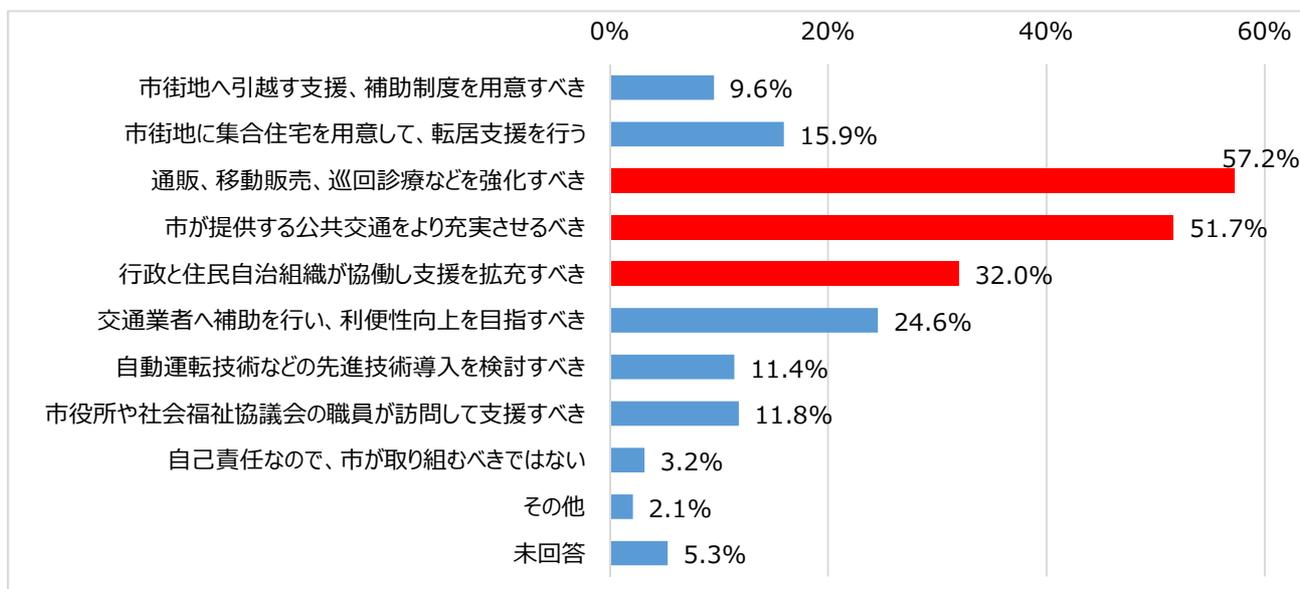
・高齢社会に対する要請や、今後の杵築市の活気に関わる要素が高い傾向にある。（赤色は上位5項目）

高齢ドライバーの交通事故増加を受けて、運転免許証を返納する方が増えています。その一方で、車を使えなくなることで買い物や病院など日常生活が不便になってしまいます。こうした事態への対策として、あなたの考えを伺います。

【C3】将来、車（原付や自転車も）を使えなくなった後の生活をどのように考えていますか。すでに車を使わない生活をしている人は、現状について教えてください。 ※複数選択可



【C4】市の施策で、こうした事態（生活不便）への対応として期待するものを選んでください。 ※複数選択可



- ・「集住」を求める人は少ない傾向にあり、自宅までの訪問や交通サポートを求める人が多数である。
- ・市が提供するコミュニティバスなどをほとんど利用していない人も、将来的に利用したいと回答した。
- ・住民自治組織の活動によるサポートについても、期待する人の割合が高い。
- ・まちをコンパクトにして、交通やサービスを集中化する国の方針実現には、いまだ高いハードルがある模様。

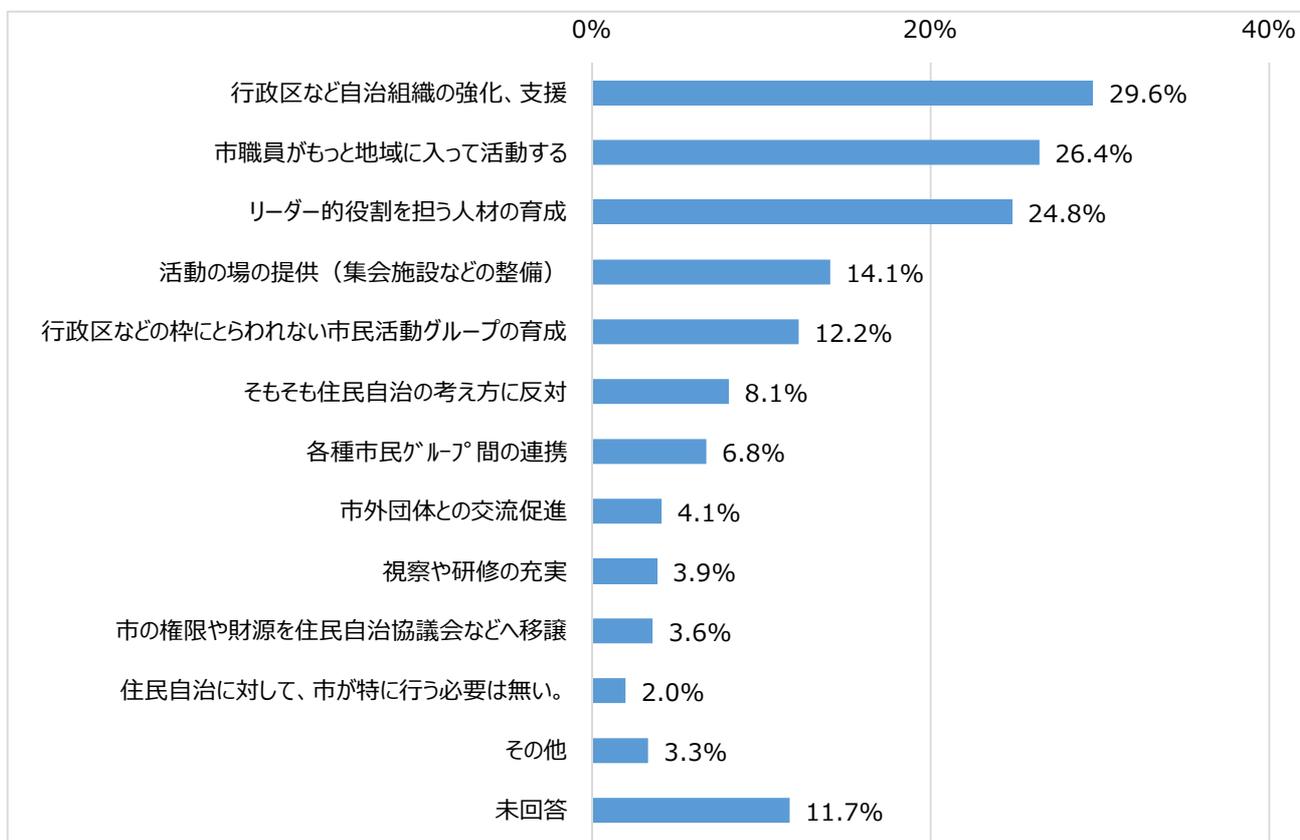
## 第2章 単純集計結果 (4) 市民の地域づくりへの参加

【D1】現在の杵築市は、市民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思いますか。



【D2】これからのまちづくりは、市民が主体となって活動していくこと（自分の住んでいる地域のことは住んでいる人たちが決め、住んでいる人たちで行動する・住民自治）が大切とされています。こうした活動をしやすいためには、市（行政）は、どのようなことを行えばよいと思いますか。 ※複数選択可

（割合が高い順に並び替え）

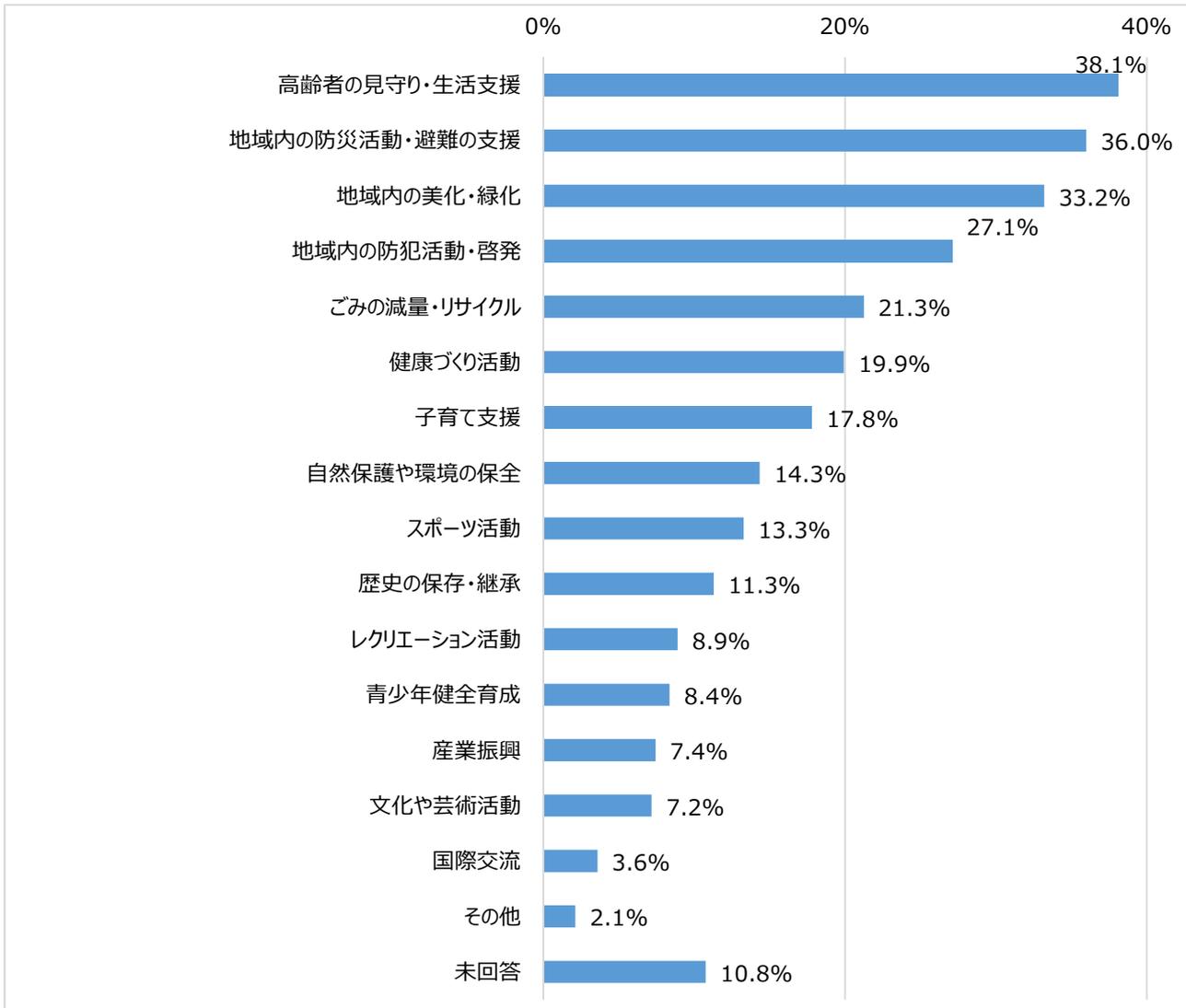


- ・「住民自治に反対」とする意見は 10 人に 1 人以下と少なく、おおむね理解が得られている。
- ・今後の活動強化のためには、運営主体となる「組織の強化」を期待されている。
- ・リーダー的人材の育成、市職員が地域に入って活動するなど、専門的・専従的に活動に取り組む体制づくりを求められている。

【D3】地域や住民が主体となることができること、市（行政）より効率的にできそうなことは何だと思えますか。

※複数選択可

(割合が高い順に並び替え)

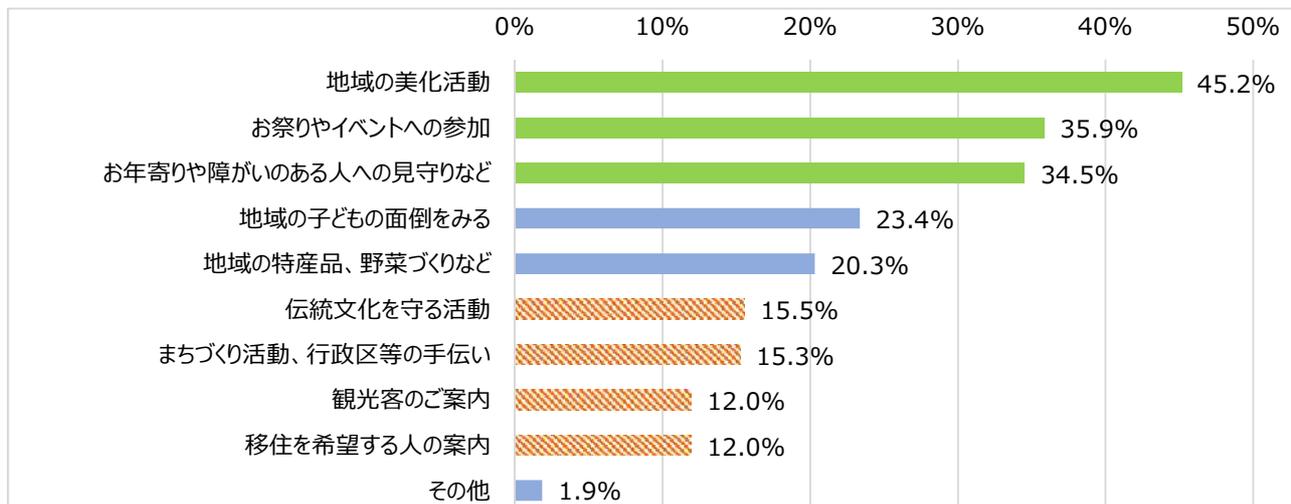


- ・防災活動や、高齢者支援、美化活動といった地域に密着した回答が上位であった。
- ・国際交流、産業振興といった日常から離れたものの回答が少なかった。

【D4】地域の活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。次の10項目のうち、それぞれ「参加したい」、「参加したくない」を選び、「どちらでもない」場合は空欄としてください。

【D4】「参加したい」の割合 ※「参加したい」の回答件数÷全体（753票）

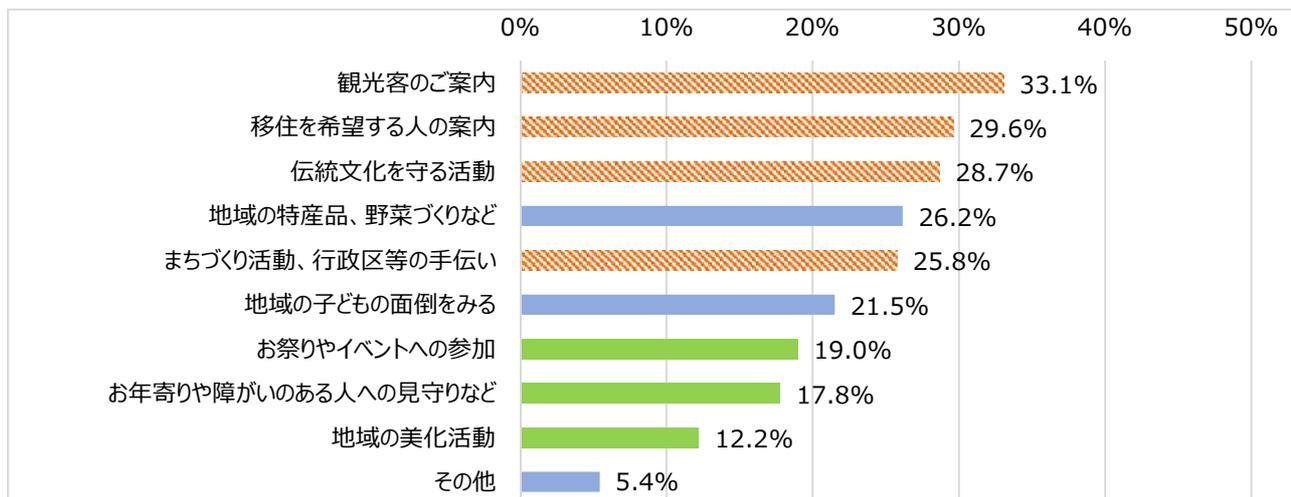
（割合の高い順に並び替え）



- ・【D3】同様に、美化活動、見守り活動など生活に密着した回答が上位であった。
- ・お祭りやイベントへの参加の回答率が高かった。A4（友人に杵築市を紹介、案内したいところ）にてイベントやお祭りが高かったことと同じく、本問においてもイベント関連の選択率が高い結果となった。
- ・選択に偏りがみられるため、活動内容によって「参加してよい」「参加したくない」が分かれてしまうと推測される。

【D4】「参加したくない」の割合 ※「参加したくない」の回答件数÷全体（753票）

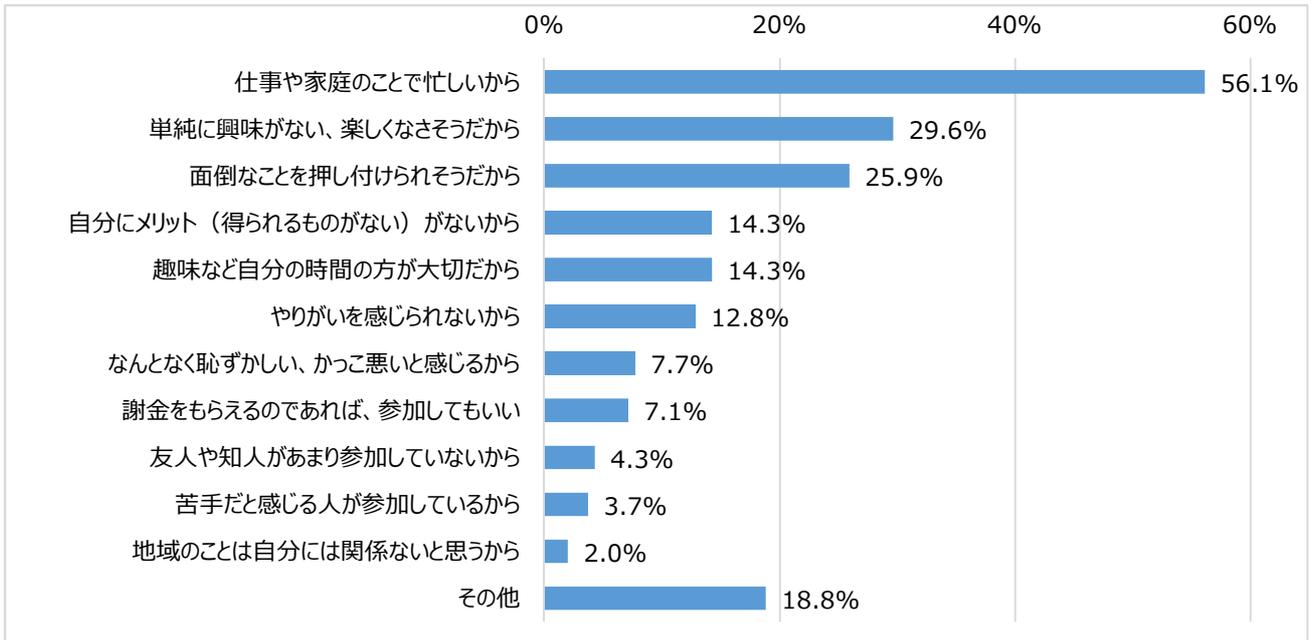
（割合の高い順に並び替え）



- ・「参加したい」活動で下位であった「観光客のご案内」、「移住を希望する人の案内」、「伝統文化を守る活動」の選択率が高く人気がない。
- ・「地域の子どもの面倒をみる」、「地域の特産品・野菜づくりなど」は意見が分かれた。
- ・「参加したい」よりも、割合の隔たりがないため、そもそもこうした活動に参加したくない人は、内容によらず、いずれも参加しない、したくないものと推測される。

【D4】活動に参加したくない理由 ※複数選択可

(割合の高い順に並び替え)



- ・「仕事や家庭のことで忙しい」との回答が半数以上で最も高い。
- ・「謝金をもらえるのであれば参加してもいい」との回答は少なく、有償でも参加率上昇は見込めないと推測される。

【D5】杵築市人財バンクを知っていますか



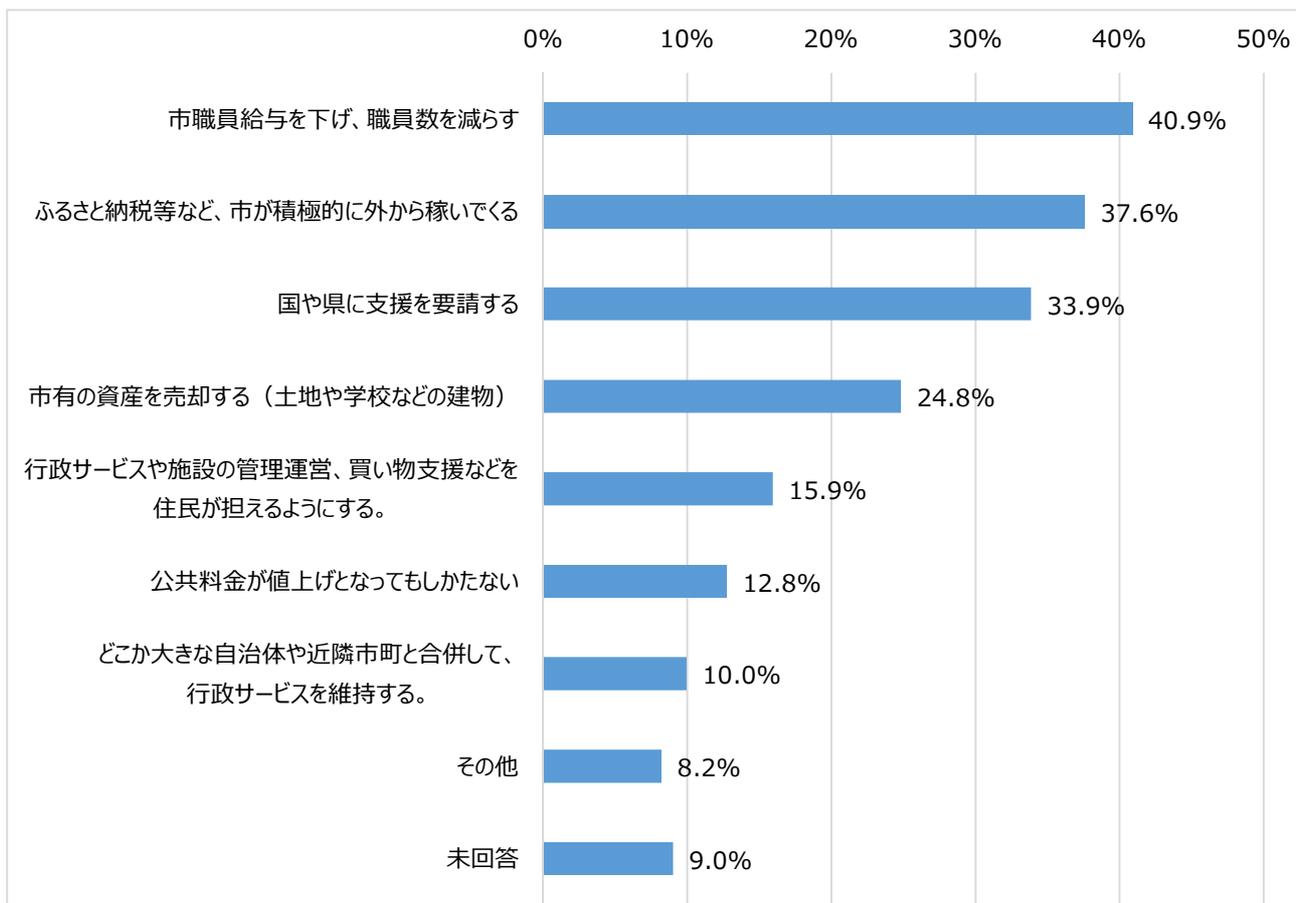
- ・4年前に開始した取組であるが、認知度はまだ低い状態にある。

## 第2章 単純集計結果 (5) 行財政・市民負担のあり方

杵築市の財政状況はひっ迫した状況にあります。今後、市税のほか、公共施設の利用料金やコミュニティバスなどの料金を現状のまま維持できなくなったり、現在行っている公共サービスを提供できなくなったり（廃止）する可能性が高い状況となっています。

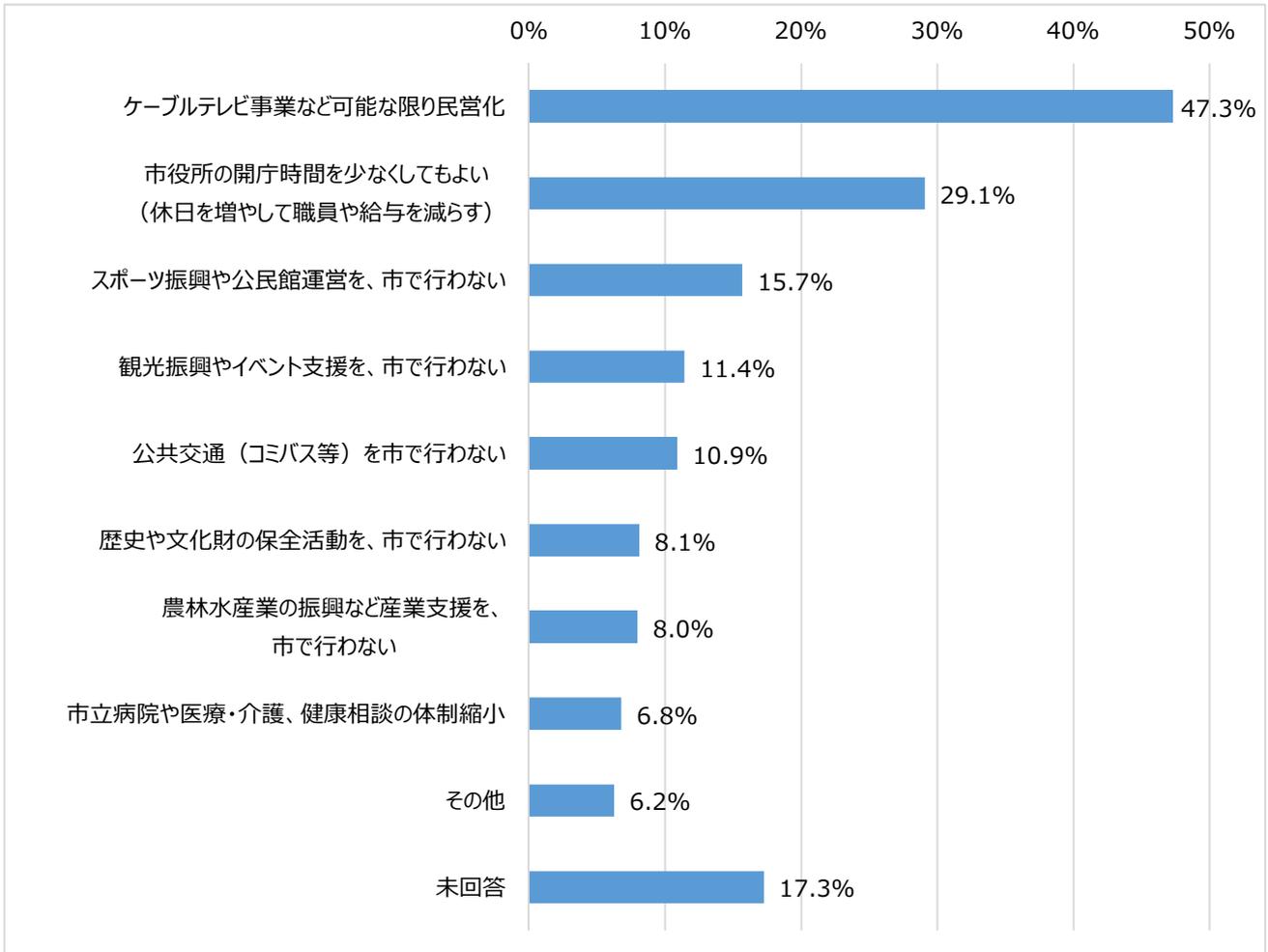
【E1】こうした際に、市民負担を求める前に、事業の効率化やコスト削減に、さらに取り組んだうえで、市が対応すべきと考えるものを選んでください。 ※複数選択可

(割合の高い順に並べ替え)



- ・当然ながら、「市職員給与を下げ、職員数を減らす」が最も高い回答であった。
- ・これ以上の市町村合併には根強い反発があると推測される。

**【E2】将来的に、杵築市が行っている事業やサービスを削減する場合、優先すべきもの ※複数選択可**  
 (割合の高い順に並び替え)



- ・おおよそ 2 人に 1 人が事業を可能な限り民営化するに回答。
- ・市役所の開庁時間を少なくしてもよいに関してもおおよそ 3 人に 1 人が選択。
- ・「スポーツ振興や公民館運営を市では行わなくてもよい」は上から 3 位であったが、選択率としては高くなかった。

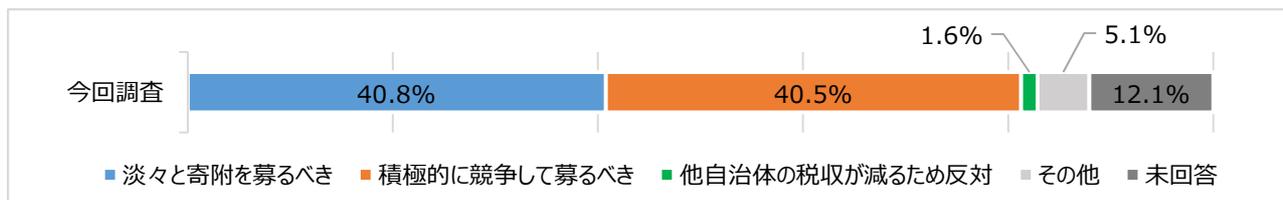
杵築市では、年間おおよそ 1.6 億円程度の「ふるさと納税」を市外の方からご寄附いただき、その約半分を返礼の品代・送料や手数料に使用し、残りを次のような財源にあてています。（平成 30 年度時点）

- 子どもの医療費無償化（中学生以下）
- 小中学校の ICT 教育環境整備（タブレット端末購入）

**【E3】ふるさと納税の使い道をご存知でしたか**



【E4】ふるさと納税をさらに集めることに対してどう思われますか

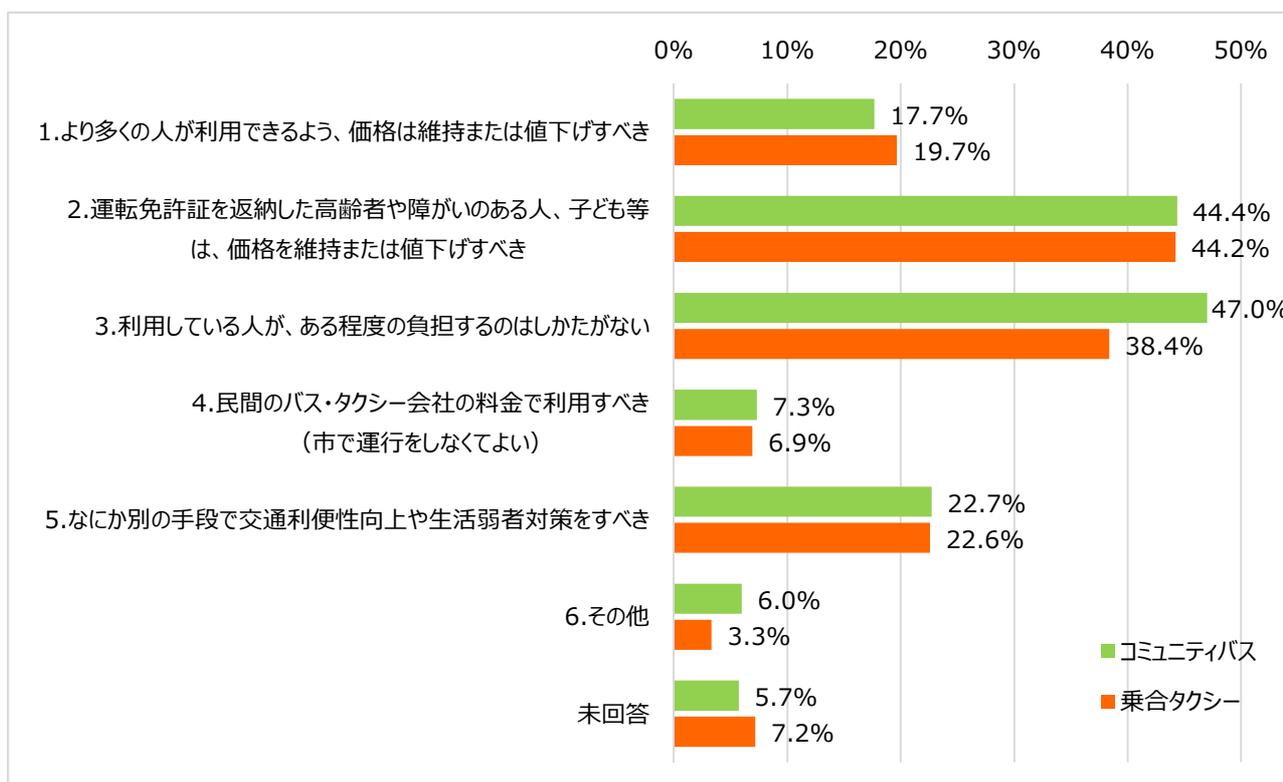


- ・ふるさと納税の使い道を知らなかったという意見が大多数。
- ・ふるさと納税をさらに集めることに対しては、「淡々と寄附を募るべき」と、「積極的に競争して募るべき」の2つの意見がほぼ同数の回答率だった。

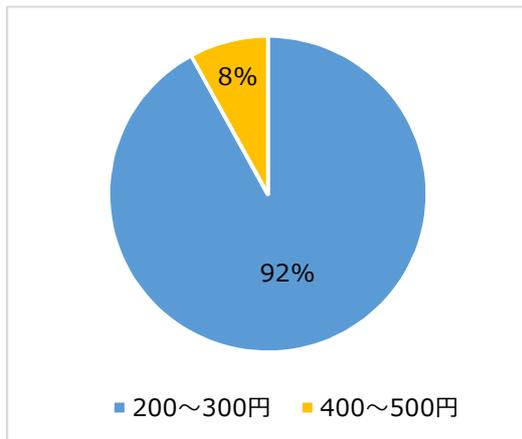
- 杵築市では**コミュニティバス**を運行し、年間 29,000 人の利用をいただいておりますが、4,600 万円の経費のうち、運賃収入は 280 万円となっています。
- 杵築市では**乗合タクシー**を運行し、年間 5,400 人の利用をいただいておりますが、1,900 万円の経費のうち、運賃収入は 200 万円となっています。（いずれも数字は平成 30 年度・端数をまとめています）

【E5】現在コミュニティバスは、どこまで乗っても 1 乗車 100 円の利用負担をいただいております。この運賃や利用者負担について、あなたの考え方に近いものをおうかがいします。 ※複数回答可

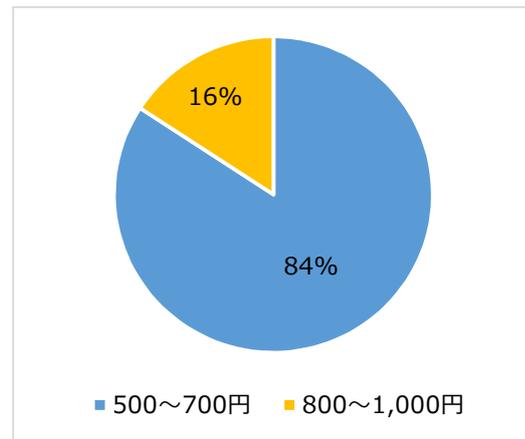
【E6】現在乗合タクシーは、1 乗車 400 円の利用負担をいただいております。この運賃や利用者負担について、あなたの考え方に近いものをおうかがいします。 ※複数回答可



【E5】で「3」を選んだ人のコミュニティバスの価格



【E6】で「3」を選んだ人の乗合タクシーの価格

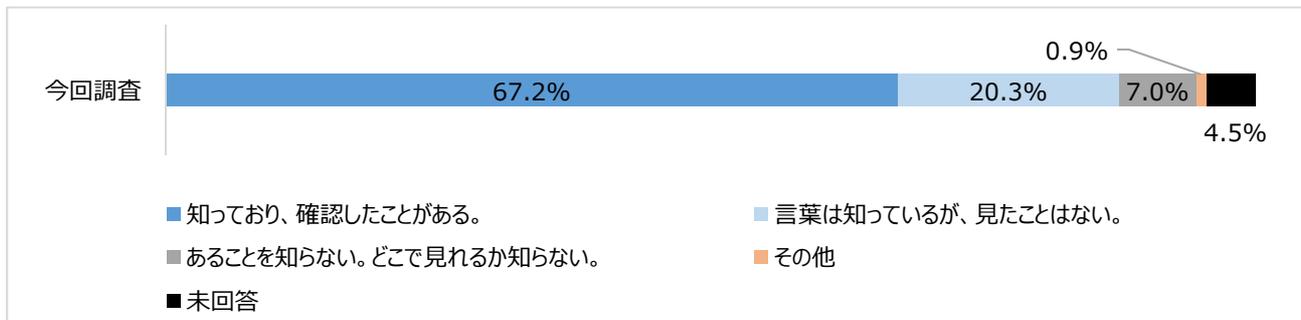


- ・「運転免許証を返納した高齢者や障がいのある人、子ども等は値下げ」、「ある程度の利用者負担はしかたない」が大きな割合を占めた。
- ・その他の意見欄で、「自動運転技術の導入」など、「別の手段で交通利便性向上や生活弱者対策をすべき」という抜本的な取組の転換を求める意見も一定数あった。
- ・「ある程度の利用者負担はしかたない」と答えた人について、現在の価格から、コミュニティバスは200～300円程度に、乗合タクシーは500～700円が妥当ではないかとの回答となった。

## 第2章 単純集計結果 (6) 回答者自身について

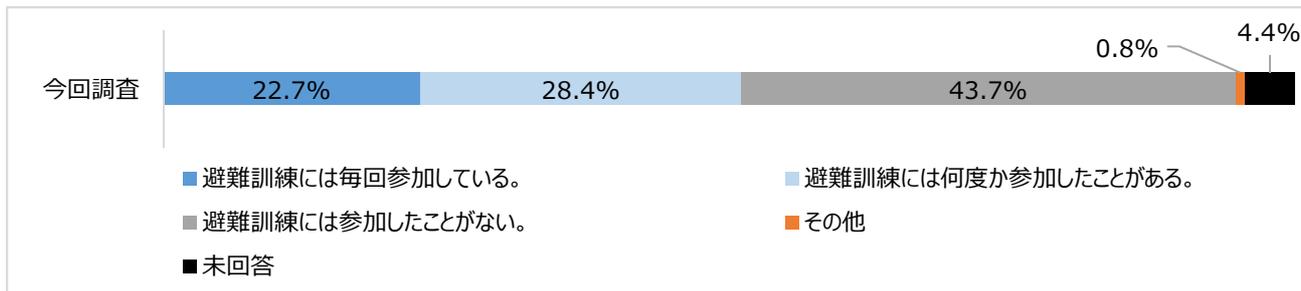
その他、回答者自身の行動や習慣等について尋ねた。

防災について、うかがいます。「杵築市ハザードマップ」を御存知ですか。



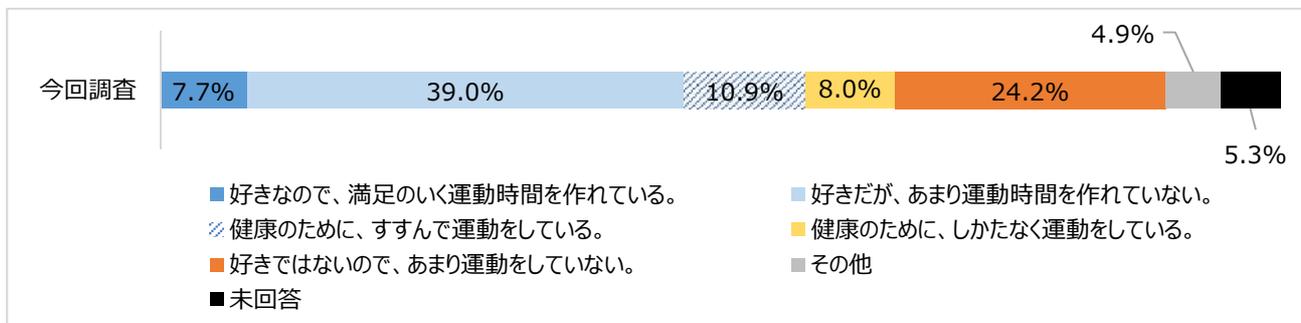
・防災に対する意識の高まりもあり、多数がハザードマップを認知し、内容について確認している状況。

市や地区で行われる防災避難訓練（地震や風水害など）の参加についてうかがいます。



・しかし、実際に行動できるかをみる「避難訓練」には、一度も参加したことがない人が半数程度いる。

あなたが運動・スポーツ活動（30分以上）が好きかどうか、時間を作れているかについてうかがいます。

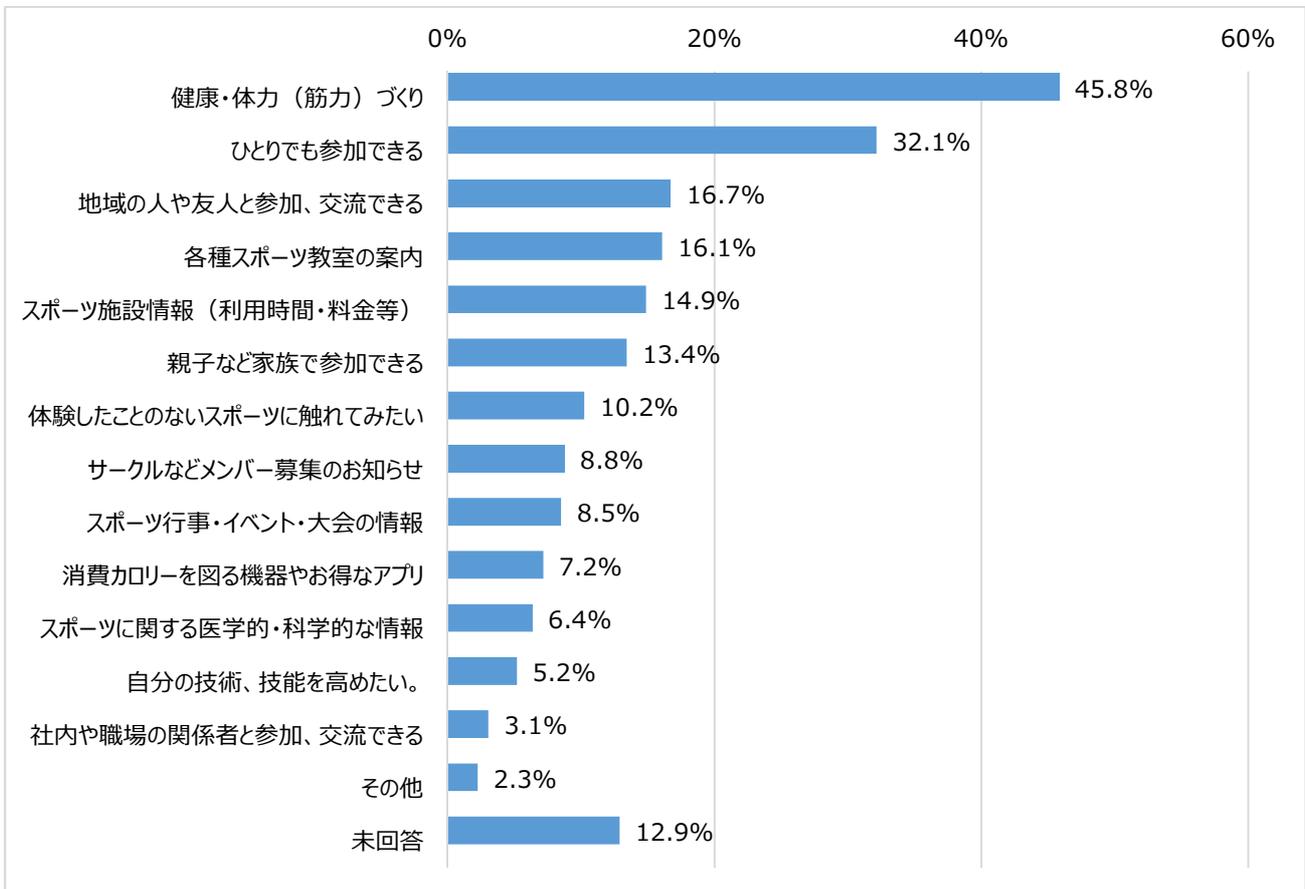


あなたはどれくらいの頻度で運動・スポーツ活動（30分以上）をしますか。



・運動習慣を作れていない人が多い。

運動・スポーツ活動に対して望む要素や情報には、どのようなものがありますか。 ※複数回答可  
(割合が多い順に並べ替え)

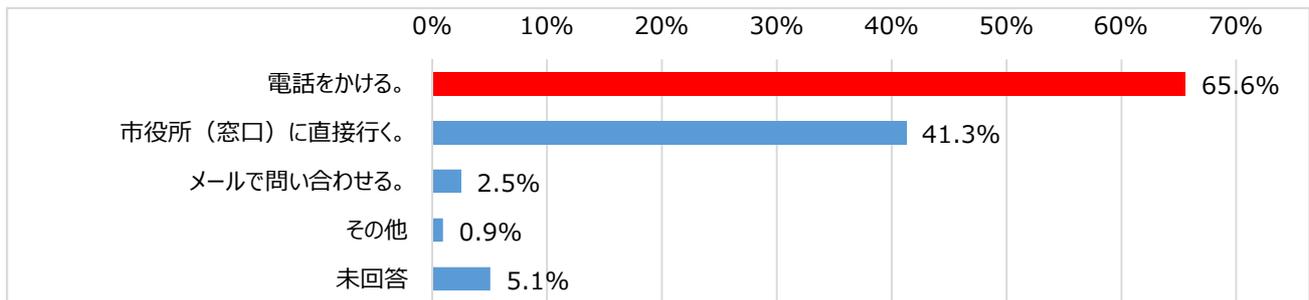


【今後実施してみたい運動・スポーツ活動の種目があれば教えてください。】 ※自由記載

・寄せられた運動・スポーツ活動の種目、意見は以下のとおり。

ヨガ (21 票)	バスケットボール	歩く・散歩	ウインドサーフィン
釣り (20)	硬式テニス	ウォークラリー	サーフィン
ウォーキング (14)	軟式テニス	ランニング	スタンドアップパドルボード
登山 (12)	フリーテニス	マラソン	シュノーケル
水泳 (9)	バレーボール	スポーツジム	スキューバダイビング
サイクリング (7)	ソフトバレー	アウトドア	ダイビング
バドミントン (7)	ミニバレー	キャンプ	水中ウォーク
ボルダリング (6)	卓球	ローラースケート	ボートレース
ゴルフ (5)	ラージボール卓球	ローラブレード	マリンスポーツ
ダンス (4)	グラウンドゴルフ	スケートボード	アメフト
筋力トレーニング (3)	パークゴルフ	スラックライン	室内球技
カヌー (3)	合気道	ロードバイク	ジャズダンス
乗馬 (3)	弓道	BMX	スカイダイビング
野球	エアロビクス	モータースポーツ	サバイバルゲーム
ソフトボール	ストレッチ	トレッキング	バンジージャンプ
サッカー	ピラティス	トレイルラン	サンドバックを打つ
フットサル	ラジオ体操	ロッククライミング	カラオケ
60 歳以上のサッカーチーム欲しい。			
ハイキング的な軽めの登山			
夜間水泳教室			
OKY クラブの一般が参加できるものを増やす。			
マイナースポーツ体験の場が欲しい。			
子どもと一緒に参加できるもの。			
いろいろあるけど、年会費（月会費）いくらではなく、1 回いくら、行くときだけ支払う方法の種目がもっとほしい。			
気軽に運動できる場所、設備が近くに欲しい。			
テレビの前でも出来るような体力、筋力がつく体操。			

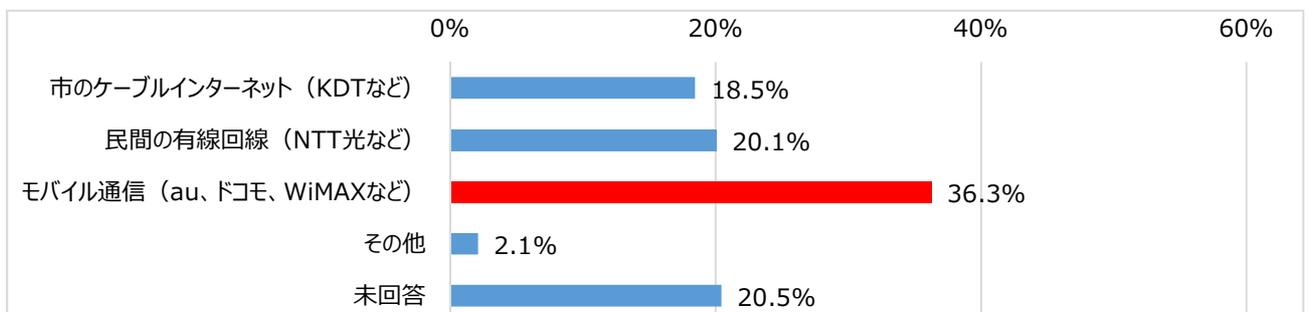
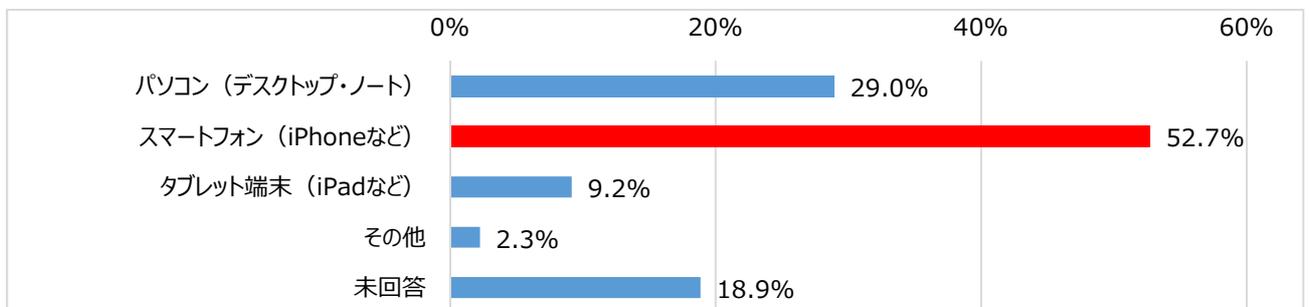
市役所に質問や確認したいことがあるとき、どのような方法で問い合わせをしますか。 ※複数回答可  
 (割合が多い順に並べ替え)



インターネット利用についてうかがいます。あなたは、日常生活でインターネットをどの程度利用していますか。



どのような機器、回線でインターネットを利用していますか。



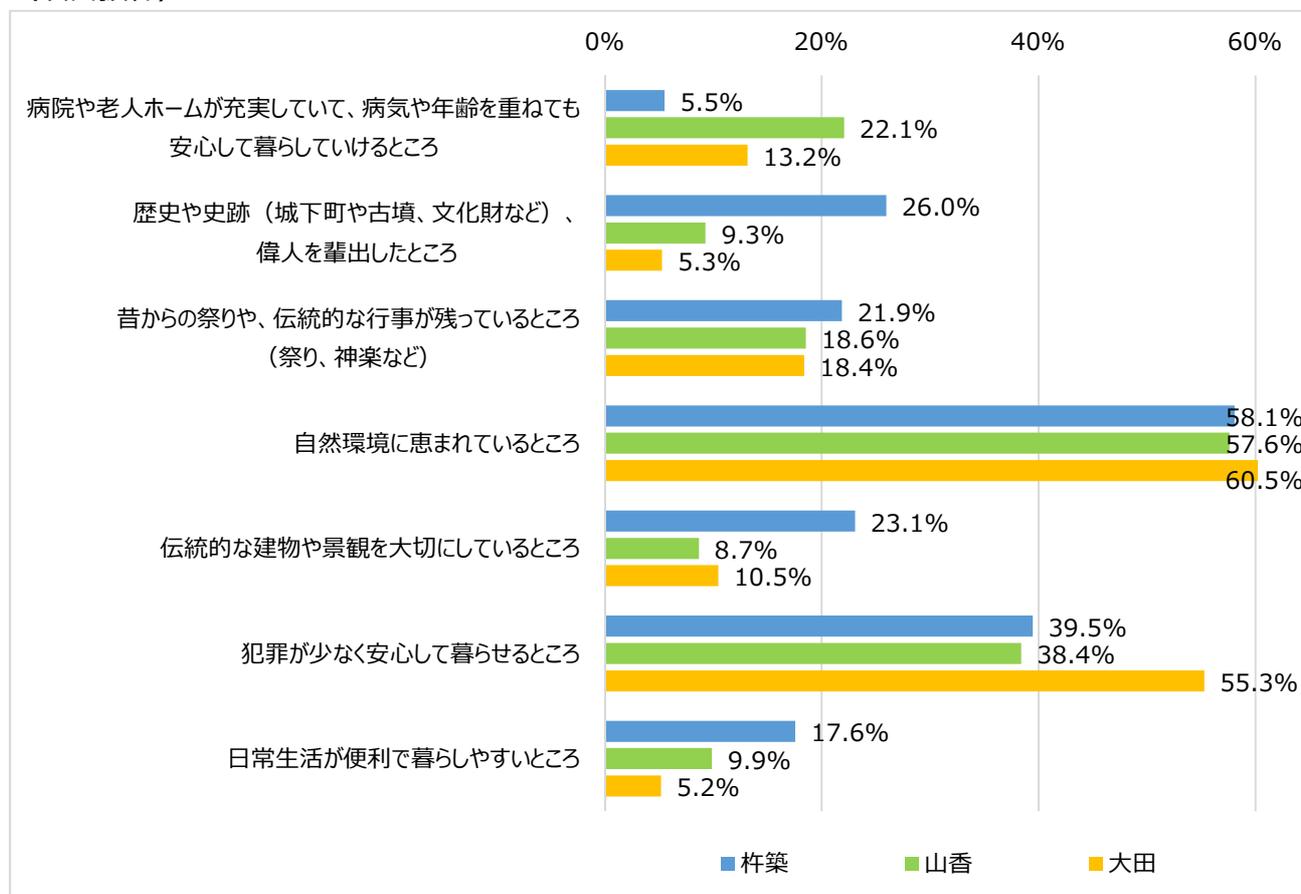
### 第3章 クロス集計による傾向分析 (1) 杵築市での暮らしや特徴

本アンケートの単純集計について、年齢、住所地といった回答者の属性のほか、複数の設問における選択を、かけ合わせることで、差がみられる項目の傾向を分析した。

「杵築市での暮らしや特徴」の中で、「【A1】住みやすいか」、「【A2】今後も杵築市に住み続けたいか」については、地域性（住所地）や年齢差、男女差は見られなかった。特に顕著な差異がみられたのは、地域性であり、以下に示す。なお、住所欄未回答票は除き、杵築 489 票：山香 172 票：大田 38 票（各対象人口は、杵築 13,968 人：山香 4,068 人：大田 678 人）である。

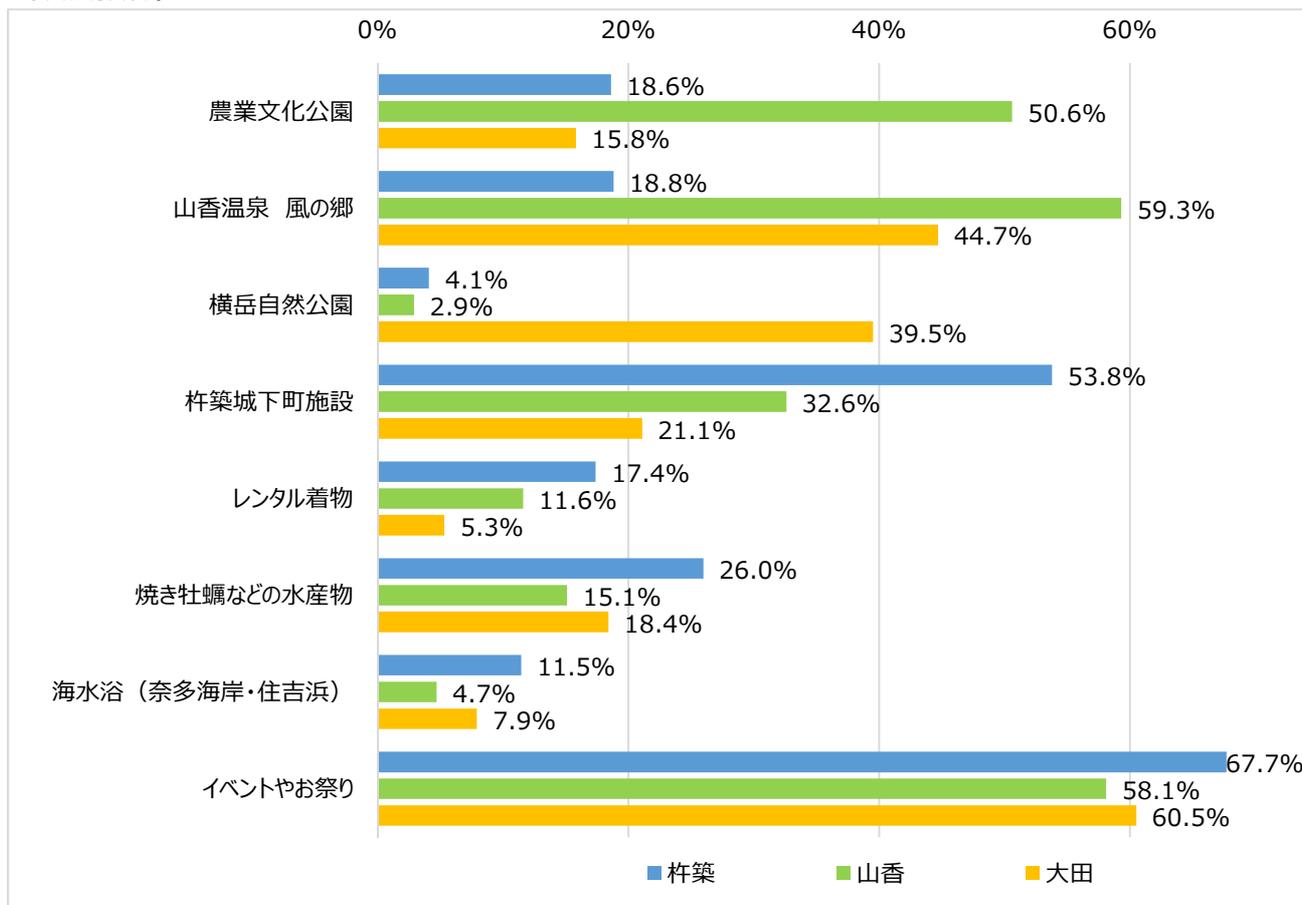
#### 【A3】杵築の好きなところ、魅力や誇りに感じるもの ※複数選択可

(項目抜粋)



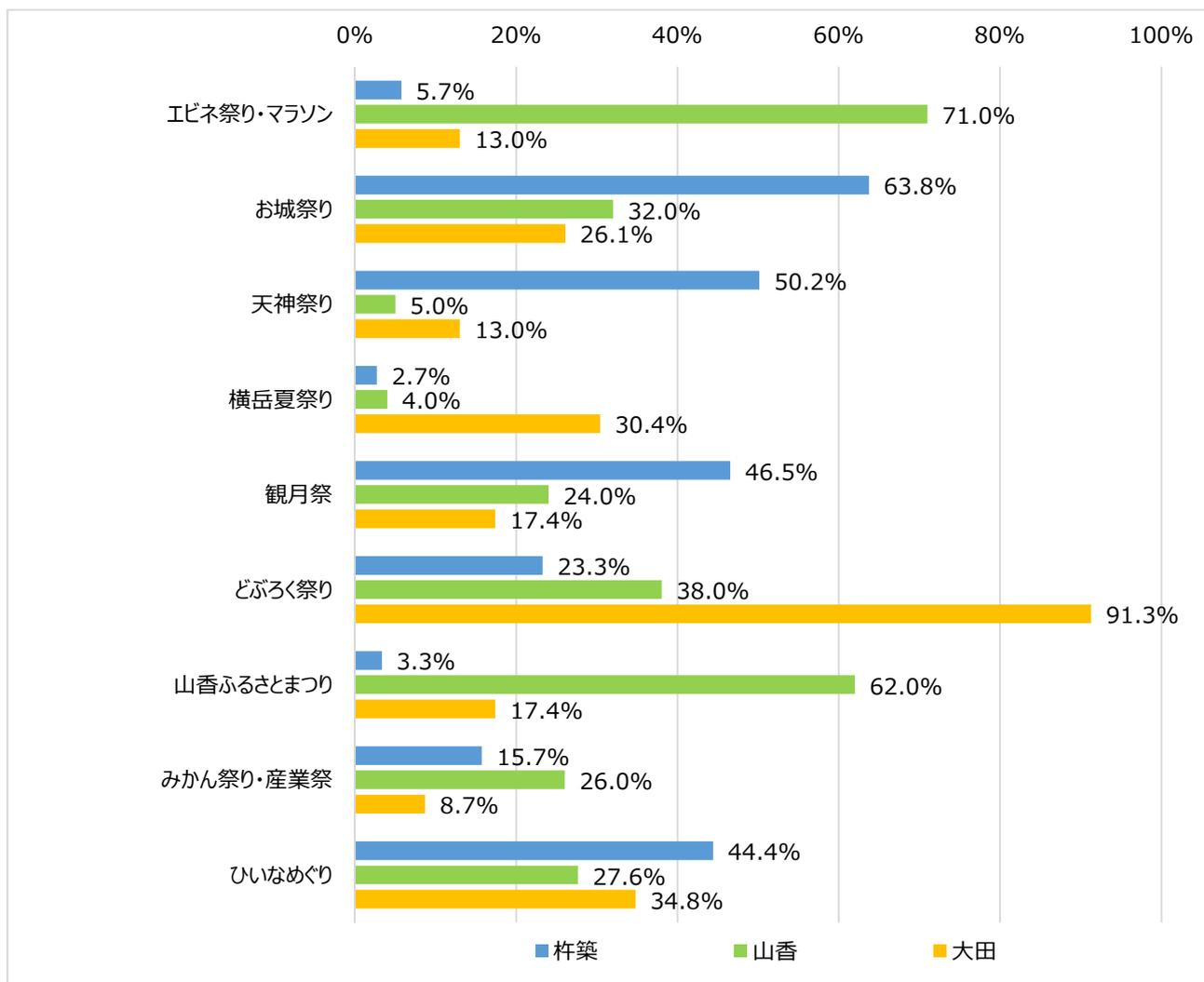
・どの地域でも、「自然環境」、「犯罪の少なさ」の回答が高い。大田地域では特に「犯罪の少なさ」が高い。  
 ・大きな差がみられたのは、「病院・老人ホームなどの充実」、「歴史や史跡」、「伝統的な建物・景観」についてである。グラフのように、回答率が2～3倍異なっている。

【A4】遠方から友人などが杵築市を訪れた際、紹介、案内したいところはどこですか。 ※複数選択可  
(項目抜粋)



- ・多くの項目において杵築、山香、大田で差の出た結果となった。杵築では城下町、レンタル着物、牡蠣などの選択率が高く、山香、大田では農業文化公園、風の郷を選ぶ意見が多かった。
- ・上に記載していないその他の選択肢に関しては両地域間で大きな差や特徴は特に無かった。
- ・イベントやお祭りの選択率は両地域ともに全項目の中で最も高い結果となった。イベントやお祭りの内訳については次項に記載するとおり。

【A4】イベントやお祭りの内訳 ※複数選択可



- ・杵築、山香、大田のすべてにおいて自地域内で開催されるイベントの選択が非常に高い結果となった。
- ・「お城まつり」、「観月祭」、「どぶろく祭り」、「ひいなめぐり」は、比較的地域を問わず高い傾向にある。

「杵築市の行政活動・市政の評価についてうかがいます」では、以下の問においてクロス集計による傾向分析を行った。

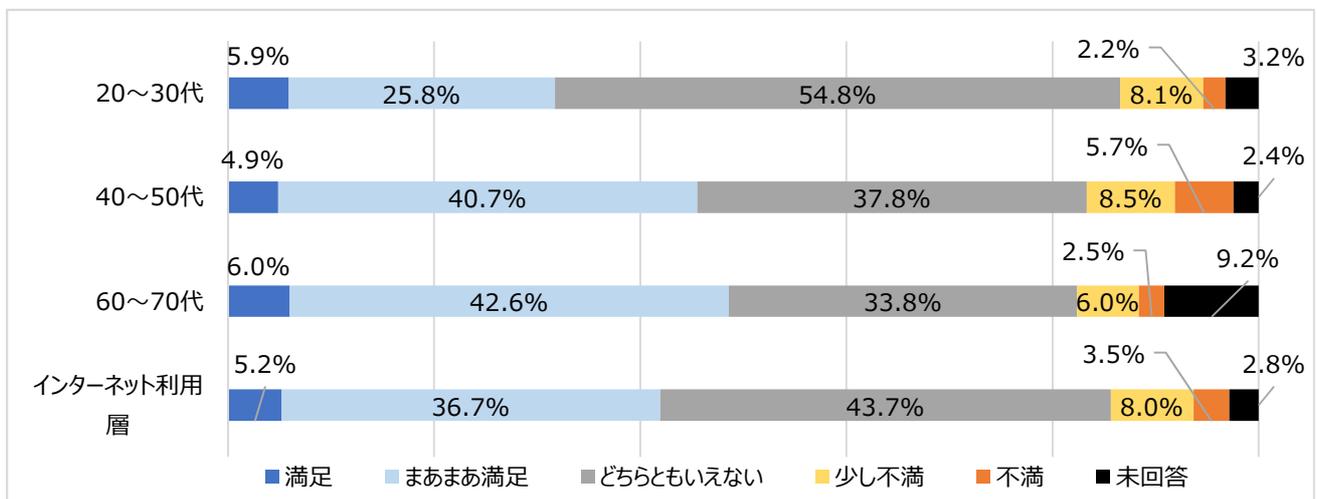
「【B1-(31)】市民への情報提供（広報きつき・市公式ウェブサイト）」に関して、20代～30代、40代～50代、60～70代の各年代に加え、インターネット利用層においても違いがあるかを分析。

「【B6】行政からのお知らせを、主にどこから得ているか」と、「【B7】行政からのお知らせのうち、ほしいのに不足している（伝わってきていない）と感じる情報は、どのようなものがあるか」に関しても、上記【B1-(31)】と同様の条件でクロス集計、分析を行った。

インターネット利用層については、問Fの【インターネットの利用についてうかがいます。あなたは、日常生活でインターネットをどの程度利用していますか。】において、「1.ほぼ毎日利用している。」または、「2.週に3日程度利用している。」のどちらかを選択した人を、日常的にインターネットを利用している層として定めた。

なお、年齢未回答票は除き、20～30代：186票、40～50代：246票、60～70代：284票（各対象人口は20～30代5,138人：40～50代6,839人：60～70代6,737人）、インターネット利用層：460票である。

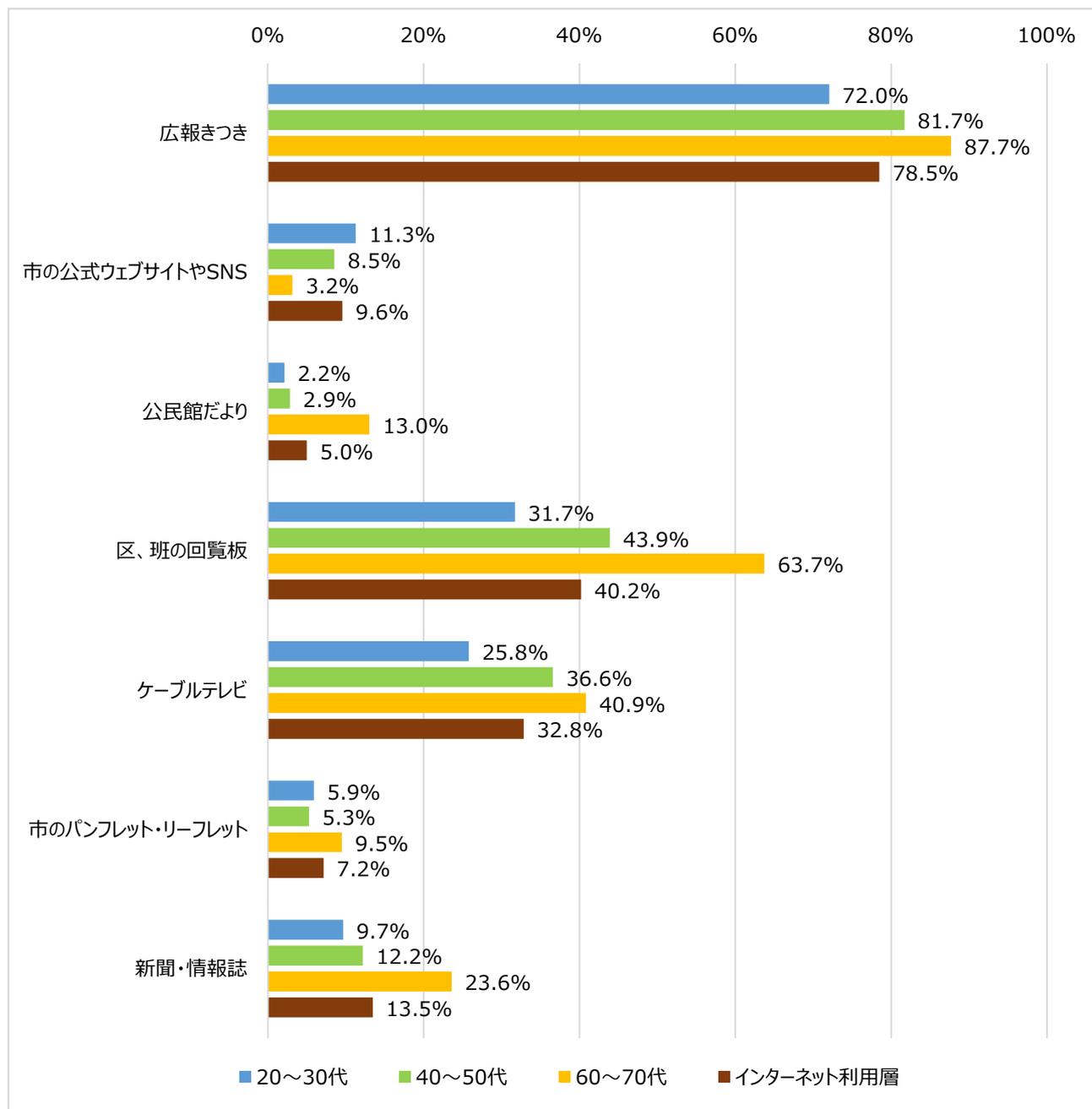
#### 【B1-(31)】市民への情報提供（広報きつき・市公式ウェブサイト）



- ・全ての年代、インターネット利用層の間で回答の割合に大きな差は無かった。
- ・満足、少し不満、不満の値が低く、まあまあ満足、どちらともいえない、の値が非常に高い。多くの人が行政から市民に対する情報提供に興味、関心を抱いていない傾向がうかがえる。
- ・20代～30代はどちらともいえないが半数を超えている。
- ・上記の事柄を前提に行った、【B6】、【B7】の分析を次に示す。

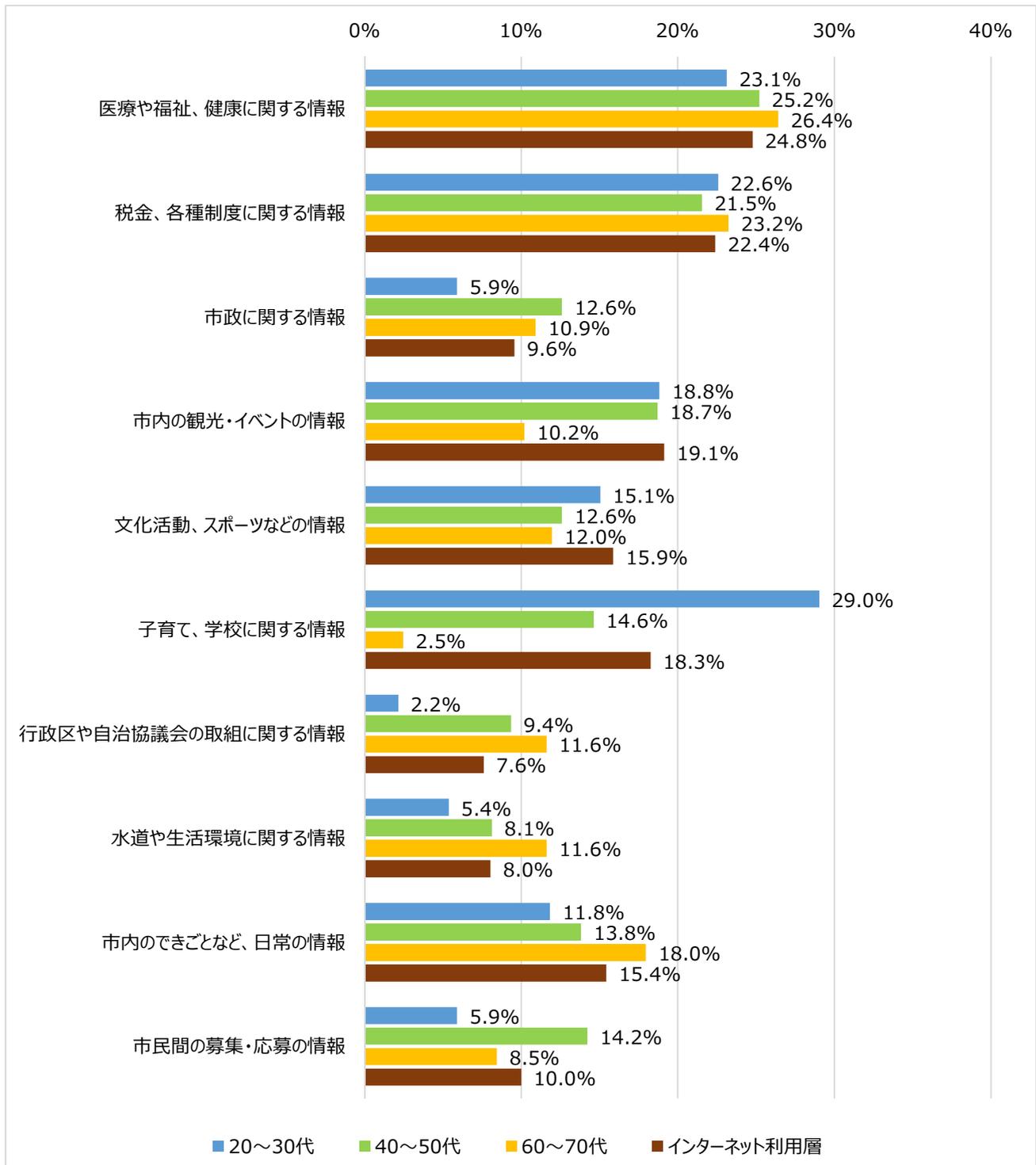
【B6】杵築市など行政からのお知らせを、主にどこから得ていますか。 ※複数選択可

(項目抜粋)



【B7】市など行政からのお知らせのうち、ほしいのに不足している（伝わってきていない）と感じる情報は、どのようなものがありますか。 ※複数選択可

（項目抜粋）



【B6】杵築市など行政からのお知らせを、主にどこから得ていますか。 ※複数選択可

- ・全年代において広報きつきが最も高い選択率であった。
- ・20代～30代は多くの選択肢において各年代の中で最も低い結果となった。
- ・60代～70代はほとんどの項目で他世代よりも数字が高かった。
- ・市の公式ウェブサイトや SNS は全ての年代で低かった。60代～70代を中心に依然として紙媒体が高かった。
- ・インターネット利用層において、特に目立った項目は無かった。

【B7】市など行政からのお知らせのうち、ほしいのに不足している（伝わってきていない）と感じる情報は、どのようなものがありますか。 ※複数選択可

- ・各年代で差が大きかったものは、子育て、学校に関する情報であった。なお、20代～30代の意見が多い結果となり、【B6】にて20代～30代が最も情報を仕入れるために使っている媒体は広報きつきであった。
- ・医療や福祉、健康、税金、各種制度など身近に必要な情報は全ての年代で均等に高く、年代間の差はほとんど無い。
- ・インターネット利用層において、特に目立った項目は無かった。

- ・上記の結果のとおり、各分析において結果が大きく異なる点や差は少なく、全体的に似たような数値になっていることが多かった。
- ・日常的にインターネットを利用している層を含めても結果の差はほとんど無いため、インターネットにアクセスできるかどうかは、行政からの情報発信においてそれほど大きな影響がないことがわかる。
- ・【B7】で集計した各年代において不足している情報を、【B6】で集計した情報を得ている媒体に効果的に掲載する必要があることがわかる。

何に重点的に取り組むべきか、年齢や子どもがいるかなどで社会通念上一般的に考えられうる差がみられる。

(例) 子育て中の世代 → 「子育て支援」、「学校教育の充実」が高い傾向。

【C2】今後さらに住みよいまちとなるため、杵築市が重点的に行うべきと思われる取組を選んでください。

本項では、杵築市は住みやすいと感じている層、杵築市は住みにくと感じている層、将来的にも杵築市に住み続けていると考えている層（住みやすさに関わらず）の3つのグループに回答者を分類。それぞれについて重点的に行うべきと考えられる取組を比較した。抽出方法は以下のとおり。

「【A1】あなたにとって、杵築市は住みやすいですか。」と、「【A2】今後も、杵築市に住み続けたいですか。」の2つの問いにおける回答をもとに分類。

- ① 【A1】において「1.住みやすいと感じる」または、「2.まあまあ住みやすいと思う」と回答した人
- ② 【A1】において「4.あまり住みやすいとは言えない」または、「5.住みにくと感じる」と回答した人
- ③ 【A2】において「1.住み続けたいと思うし、実際に住んでいると思う。」または、「3.住み続けたくはないが、なんとなく（または、しかたなく）住んでいると思う。」と回答した人

#### ■ 抽出結果

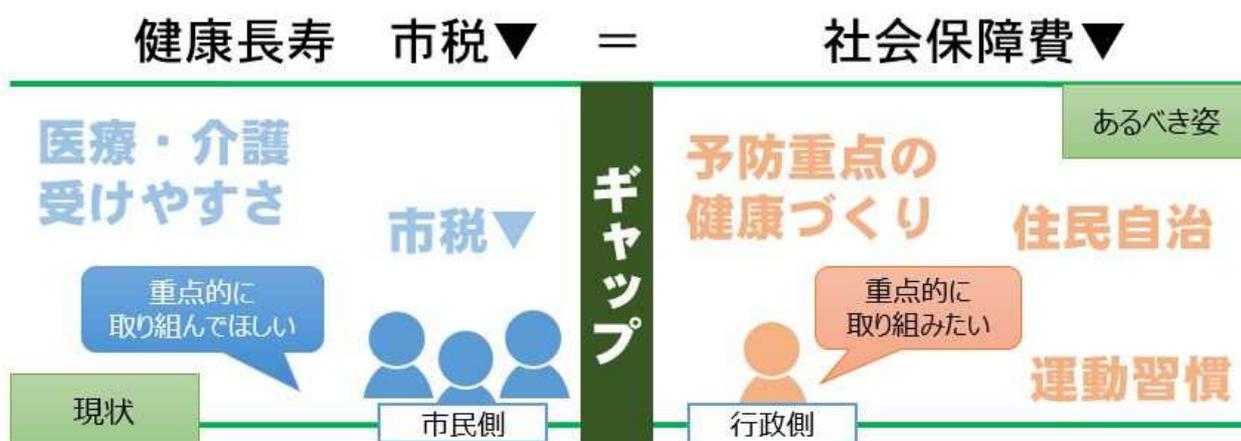
重点的に取り組んでほしい項目について、各グループ間で、大きな順位の逆転は無かった。割合も特徴といえるほどの差はみられない。このことから、「杵築市を住みやすいと感じているか否か」、「（住みやすさに関わらず）将来的にも杵築市に住み続けると考えている」、といった要素に関わらず、市民には共通した意向があると分析される。なお、年齢や地域、性別により回答者を分類し、クロス集計を行ったところ、同様の結果となった。

また、策定を進める「杵築市総合計画（令和2年から5か年計画）」の中で、市が重点的に取り組もうとしている施策に関して、市民と行政の間にギャップがあることがわかった。市では、「予防・健康づくり体制の充実」や、「住民自治推進の取組」等により、健康長寿社会の実現や、社会保障費の削減等を目指し、その結果として市民負担の減少に繋がりたいと考えている。一方で、市民の要望として「医療・介護体制の充実」、「市税の軽減」が全てのグループにおいて高い選択率を示しており、「予防を重点とした健康づくり」、「スポーツ・文化活動充実」、「住民自治の推進」、といった市が重視する項目の順位は軒並み低くなっている。

本アンケートでは、このような市民と行政の間にあるギャップが浮き彫りになる結果が得られた。

・次頁に①～③の各グループによるクロス集計の結果と、その順位を示す。

① 【A1】での回答が 1 または 2	② 【A1】での回答が 4 または 5	③ 【A2】での回答が 1 または 3
医療・介護体制の充実 (47.3%)	若者の定住 (50.8%)	若者の定住 (45.6%)
若者の定住 (43.7%)	子育て支援 (39.7%)	医療・介護体制の充実 (45.3%)
子育て支援 (39.4%)	企業の誘致 (39.7%)	子育て支援 (37.3%)
高齢者の見守り (31.1%)	医療・介護体制の充実 (37.3%)	企業の誘致 (32.3%)
企業の誘致 (29.6%)	公共交通の充実	高齢者の見守り (29.0%)
市税の軽減 (24.9%)	市税の軽減 (25.4%)	市税の軽減 (27.6%)
自然環境の保全	高齢者の見守り (18.3%)	自然環境の保全
公共交通の充実	移住者の受入れ	公共交通の充実
振興・就農漁支援	自然環境の保全	振興・就農漁支援
歴史・文化財・景観保全	都市基盤の整備	移住者の受入れ
移住者の受入れ	歴史・文化財・景観保全	歴史・文化財・景観保全
学校教育の充実	観光振興、交流人口	市の財政の健全化
市の財政の健全化	市の財政の健全化	学校教育の充実
社会的弱者への支援	お祭り・イベントの開催	社会的弱者への支援
観光振興、交流人口	学校教育の充実	お祭り・イベントの開催
お祭り・イベントの開催	商工業振興・企業支援	都市基盤の整備
公共サービス利用料軽減	振興・就農漁支援	観光振興、交流人口
都市基盤の整備	公共サービス利用料軽減	公共サービス利用料軽減
公共施設の充実	公共施設の充実	公共施設の充実
予防を重点とした健康づくり(7.9%)	社会的弱者への支援	商工業振興・企業支援
商工業振興・企業支援	予防を重点とした健康づくり(7.1%)	ｽｰｯ・文化活動充実 (8.1%)
ｽｰｯ・文化活動充実 (7.5%)	ｽｰｯ・文化活動充実 (5.6%)	予防を重点とした健康づくり(7.8%)
国際交流の促進	外国人人材の受け入れ	国際交流の促進
住民自治の推進 (2.4%)	住民自治の推進 (2.4%)	人権教育の充実
人権教育の充実	国際交流の促進	住民自治の推進 (2.2%)
外国人人材の受け入れ	人権教育の充実	外国人人材の受け入れ



### 第3章 クロス集計による傾向分析 (4) 市民の地域づくりへの参加についてうかがいます

「市民の地域づくりへの参加についてうかがいます」では「【D4】地域の活動やボランティアに参加したいと思いますか」の問いにおいて、20～30代、40～50代、60～70代の3つの年代における参加したい地域づくりの差を分析。年代ごとに参加したい活動の順位付けを行い、順位の違いや選択率の比較を行った。

なお、20～30代：186票、40～50代：246票、60～70代：284票（各対象人口は20～30代5,138人：40～50代6,839人：60～70代6,737人）である。

【D4】地域の活動やボランティア活動に参加したいと思いますか？参加したいものには「○」を、参加したくないものには「×」を書いてください。（どちらでもない場合は空欄） ※複数選択可

① 20～30代における参加したいボランティアを順位付けし、5人に1人以上の人（20%以上）が参加したいと答えたもの。

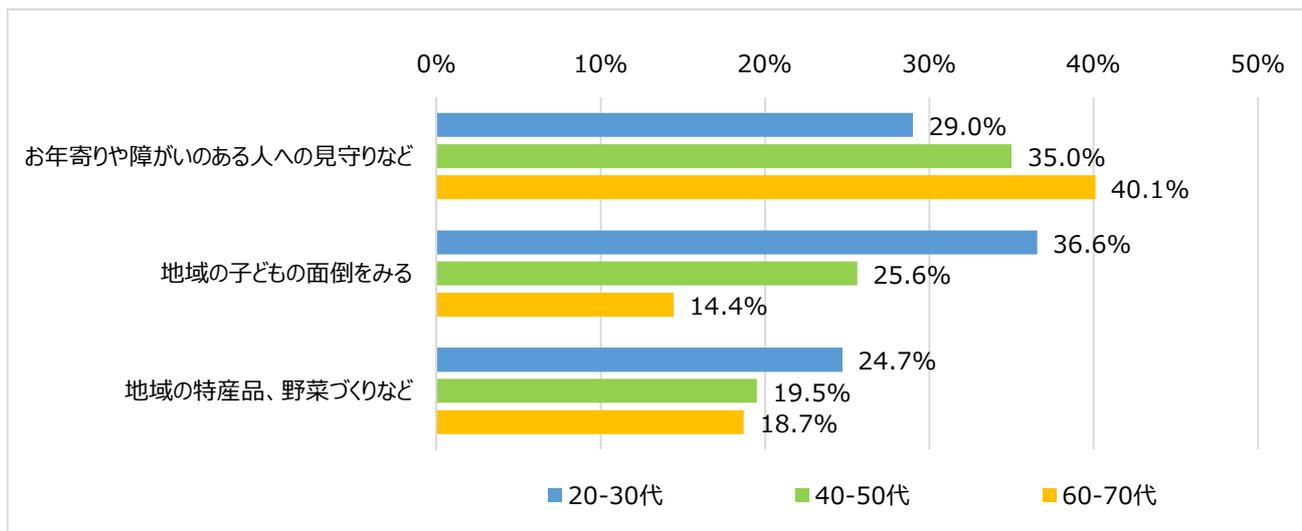
- ・お祭りやイベントへの参加、手伝い・・・40.9%
- ・地域の美化（清掃やリサイクル）活動・・・39.8%
- ・地域の子どもの面倒を見る（放課後や休日に勉強やスポーツを教える。一緒に遊ぶなど。）・・・36.6%
- ・地域のひとり暮らしのお年寄りや、障がいのある人などへの見守りや声かけなど・・・29.0%
- ・耕作放棄地などを活用した地域の特産品・野菜づくりなど。・・・24.7%
- ・伝統文化を守る活動（太鼓や神楽などを伝える活動）・・・22.0%

② 40～50代における参加したいボランティアを順位付けし、5人に1人以上の人（20%以上）が参加したいと答えたもの。

- ・地域の美化（清掃やリサイクル）活動・・・45.5%
- ・地域のひとり暮らしのお年寄りや、障がいのある人などへの見守りや声かけなど・・・35.0%
- ・お祭りやイベントへの参加、手伝い・・・34.6%
- ・地域の子どもの面倒を見る（放課後や休日に勉強やスポーツを教える。一緒に遊ぶなど。）・・・25.6%

③ 60～70代における参加したいボランティアを順位付けし、5人に1人以上の人（20%以上）が参加したいと答えたもの。

- ・地域の美化（清掃やリサイクル）活動・・・50.4%
- ・地域のひとり暮らしのお年寄りや、障がいのある人などへの見守りや声かけなど・・・40.1%
- ・お祭りやイベントへの参加、手伝い・・・37.0%



・「お年寄りや障がいのある人への見守り・支援」は、世代が上がるごとに選択率が約 5% ずつ上昇。60～70 代における回答の順位は 2 位であり、高い関心を集めた。20～30 代の選択率が多世代と比較すると低いが、この年代における本項目の順位は 3 位であり、本年代内における他の項目と比べて低いわけではなかった。

・「地域の子どもの面倒をみる」については、子育て世代の多い 20～30 代の選択率が群を抜いて高く、60～70 代の選択率は低かった。60～70 代では、回答欄に「体力的な問題等から活動参加が難しい」と記載されているものも多くあった。

・「耕作放棄地等を活用した、地域の特産品・野菜づくりなど」については、20～30 代の選択率が各年代の中で最も高かった。およそ 4 人に 1 人が選択している。ただ、参加したくないボランティアでもこの世代の上位に入っており、個人によって意見の分かれる結果となった。

#### ■ その他の傾向

・その他の地域づくりやボランティア活動に関しては、世代間で目立った特徴や大きな差などは無かった。また、全体結果との大きな違いも見られなかった。

・20～30 代のこうした活動に対する「参加したい・してもよい」の回答率は高かった。5 人に 1 人以上が参加したいと回答したボランティアの種類も他年代と比較して最も多かった。

・60～70 代に関しては、体力的な理由から、積極的に、また自信をもって参加できる活動が限られるとの記載が多々あり、今回の結果に反映されていた。